鳥取市議会予算審査特別委員会福祉保健分科会会議録

会議年月日	令和7年3月12日（水曜日）		
開 会	午前10時11分	閉 会	午後3時31分
場 所	市役所本庁舎7階 第1委員会室		
出席分科員 (8名)	委員長 勝田 鮮二 副委員長 加嶋 辰史 委員 岡田 実 西尾 彰仁 岩永 安子 魚崎 勇 平野真理子 岡田 信俊		
欠席分科員	なし		
委員外議員	なし		
事務局職員	局長補佐 毛利 元 議事係主事 福田 佳菜		
出席説明員	【福祉部】 福祉部長 藏増 祐子 次長兼地域福祉課長 山内 健 地域福祉課参事 大島ゆかり 地域福祉課課長補佐 清水 圭二 地域福祉課指導監査室長 山形 孝史 地域福祉課指導監査室長補佐 松田 珠美 長寿社会課長 松本 縁 長寿社会課課長補佐 増田 和人 長寿社会課島根中央包括支援センター所長 藤木 尚子 長寿社会課ねりんピック推進室長 小谷 昇一 障がい福祉課長 枅谷 承文 障がい福祉課課長補佐 太田 信一 生活福祉課長 西垣 隆司 生活福祉課課長補佐 谷村 彰彦 次長兼保険年金課長 池上 朱美 保険年金課課長補佐 藤本 嘉宏 【市立病院】 病院事業管理者 平野 文弘 副院長兼事務局長 小林 俊樹 事務局次長兼総務課長 松田 真治 地域医療総合支援副センター長 網谷 憲治 事務局総務課業務管理室長 波多野 哲 事務局医事課長 谷口 智章 事務局医事課課長補佐 和口 豊実 事務局総務課主査 森本めぐみ		
傍 聴 者	なし		
会議に付した事件	別紙のとおり		

予算審査特別委員会福祉保健分科会に切替え 午前10時11分 開会

【市立病院】

- ◆勝田鮮二分科会長 本日の分科会について数点確認いたします。討論、採決を行うことはできません。審査終了後、分科会長報告に盛り込むべき事項の協議を行い、最後に全体の取りまと

め、委員長報告に盛り込むべき事項の協議を行います。分科会長報告は、審査時における質疑、答弁、意見を報告するものですので、審査時に出された意見等以外は報告することができません。分科会長報告はこの分科会で確認します。皆様の御協力をお願いします。

議案第27号令和7年度鳥取市病院事業会計予算について（説明）

◆**勝田鮮二分科会長** それでは議案第27号令和7年度鳥取市病院事業会計予算の質疑を行います。質疑、意見のある方は順次発言をお願いします。

◆**勝田鮮二分科会長** 西尾委員。

◆**西尾彰仁分科員** ちょっとそんなに複雑なことではないですけども、例の鳥取市病院事業会計予算書の16ページに、これ前年度分ということで令和7年3月31日を見込んでのことだと思いますが、未収金で11億4,793万7,000円とあって、貸倒引当金が167万5,000円ですね。それで、21ページは、この未収金がぐっと上がって13億453万1,000円となっております、この要因と、もう1点は病院の現在の入院費だとか、患者さん負担でどれだけ債務といいますか、直近の状態で未収金が残っているのか、そのことをちょっと教えていただけないでしょうか。

◆**勝田鮮二分科会長** はい、小林副院長。

○**小林俊樹副院長兼事務局長** はい。副院長小林です。貸借対照表の未収金の差ということですが、病院の未収金、出納整理期間がありませんので3月31日ですばっと切れてしまうということがあって、ですので、主だったものは診療報酬なんですね。支払基金と国保連からの診療報酬の2か月分というのが全部あるので、それが例年10億以上あるというのがあって、それがほとんどのものでして、それ以外にあとは患者さんの自己負担分とかのもので、本当の意味での未収金にならない、3月31日に切ってしまったがための未収扱いになるというのが例年かなり、具体的に1,000万ぐらい。年度末での自己負担分の未収金、1月31日現在になりますけど、4,600万という額になります。ただ、これが毎月同じように月締めをしている関係でずれていくことがあるので、年度末になるとそんなに残ってきませんで、例えば令和5年度の未収金とか今時点で見ると690万ぐらいですかね、というようなことになってくるので、どうしても締めの時期の問題で貸借対照表って3月31日ってきちっとやるので、そういうことで大きく見えるということになってきます。

◆**勝田鮮二分科会長** はい、西尾委員。

◆**西尾彰仁分科員** 昨年と今年でね、ここの金額が結構差額があるんですけども、その要因っていうのは、さっきちょっとお尋ねしたんですけども、分かりました。2か月のずれは分かるんですけども、差をちょっと再度お願いします。

◆**勝田鮮二分科会長** 小林副院長。

○**小林俊樹副院長兼事務局長** はい。一番大きいのは曜日の関係とかになりまして、土曜、日曜が31ということになると例えば4月1日に支払いがずれたりということもあって、支払いがずれていくことで未払金が増える、それから収入もずれていくことで収入金も未収になるとかですね、そういうものもありまして、実態としてはほとんど何か特別な未収金が増えるというこ

とではなくて、曜日の関係というのが一番大きいんじゃないかなというふうに思います。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。これ21ページと16ページの貸借対照表流動資産の未収金のところ見ると1億5,000万ぐらい違うんですね。本当にちょっと何か分かったような、分かってないような、私も。だから、ずれはあるにしても3月31日で1億5,000万も差が出るのかなという思いはちょっとしたところです。それともう1点、続けて悪いですけど、この未収金といいますか、患者さんが支払って、なかなか払ってくれないというような場合の市立病院としてのその催促といいますか、収納はどのようにされておられるのか、その辺りお願いします。

◆勝田鮮二分科会長 谷口課長。

○谷口智章医事課長 医事課長谷口です。お尋ねの未収金の対策についてなんですが、患者さんの負担金の未収が発生した場合に担当者を設けておまして、まず、未収が発生した段階で患者さんに連絡してお支払いいただくと、促すということと、それがなかなかお支払いいただけないようでしたら督促状を毎月発送しておりますし、あと、相談、それでもお支払いが難しい場合は、分納といたしまして一度に全額払っていただくのではなくて、月何回かに分けて分納いただくような相談も受けております。

それでもなかなかお支払いいただけないような場合ですと、当然電話をかけたり、場合によってはお宅に訪問したり、あと、それでもなかなか難しい場合は未収金の回収を弁護士のほうに委任しておまして、はい。そちらに対応いただいたり、現在、連帯保証人の代行制度といたしまして、民間の保険会社さんのほうに委託して対応いただいているというようなこともやっております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 分かりました。未収金があってはならないわけですが、様々な状況の方、それから入院してから家族やそういういろんなこともあると思いますので、丁寧に説明をして、未収金の扱いをしていただけたらと思います。これは意見として述べておきます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岡田実委員。

◆岡田 実分科員 この令和7年度の事業の中で、ホスピタリティーといたしますか、そういったことに関わる職員さんの研修、例えば受付の方、あるいは看護婦さんといいますかね、やっとなられる方や、中には医師の先生も含めてなんでしょうけど、病院全体スタッフに関するところのホスピタリティーの研修というものは行うような事業といたしますか、入っておりますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。病院としてホスピタリティーというか、接遇といたしますか、そういった特化した研修という、独自では、今のところ近年はやってないんですが、職員研修に関しては、事務職であれば県の研修センターですね、あちらのほうで必ず職階別の研修を受けさせていますし、今は自分で選んで、オンライン研修みたいな形でそういうものは受けれるようにはなっております。それから職種別には、看護職については、看護職として看護局で独自にそういった研修を行っておりますので、それは毎年のカリキュラムでやって

おるといことがあります。なので、なかなかフォローできないのが医師、その辺りではありますけども。ちょっと検討すべき課題かなとは思っておりますけど、実際はそういった特化した研修はできていないという状況ではございます。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 分かりました。ちょっと聞かせていただいた理由なんですけども、このホスピタリティーという言葉は、もともと病院関係、医院関係から出て、今では観光の部分であったりとか、全ての業種に対してその言葉が使われる、元が病院だなというふうに思っていました。それで、市立病院さんのほうに入って行って利用させてもらうに当たって、やっぱりいろいろ、例えば通り過ぎる医師の先生であったりとか、看護婦さんの方の、患者さんと通り過ぎる場面での、例えば目と目の挨拶とか、あるいは受付に行ったときに何人か並ばれていたときにはこちらにどうぞとか、そういう待ってる方に対してもそうですし、歩かれてる方にもそうですし。

当然、医療行為をされるときには、そこは専門性があるので、そこはあると思うんですけど、医療行為ではない場面の、総合受付もそうでしょうし、その辺がこれちょっと私のあくまでも所見、私が見た目線なんですけども、やっぱりもう少し手厚くやることによって、この病院って来てよかったんだなって思うような、そういう気持ちの部分で、患者さんに寄り添うような気持ちを出すことによって、患者さんが増えるのではなかろうかっていうふうな思いでちょっと聞かせていただいたものです。

あくまで意見なんですけども、やはり今こうやって外来の患者さんが減ってきてる中で、また来ようという、また来ようというか、やっぱり同じだと思いますので、ここの病院に来たら安心できるんだというふうな、そういうことを進めるためにも、ぜひ、ホスピタリティーといえますか、接客研修なのか、名前こそいろいろあるんですけども、ちょっと威圧になってはいけないんですけども、本当に通り過ぎる、お互いがすれ違う、その瞬間の、目と目の挨拶であったり、そういったところから気遣いのあることをすれば、もっと患者さんが安心してこれる鳥取市立病院ではなかろうかというところの思いも含めて、ちょっと意見を申し上げさせていただきました。

◆勝田鮮二分科会長 網谷センター長。

○網谷憲治地域医療総合支援センター副センター長 患者サポートセンター長の網谷です。今いただいた意見とかというのは、おおむね患者サポートセンターのほうに苦情という形で集約されておまして、様々な意見を日々お聞きしているところなんですけども、内容の濃淡とかありますけども、特にこれは院内に周知すべきであろうというものにつきましては、まとめまして院内のグループウェアのほうで掲示したりとか、各種委員会で報告したりというような形で、対応の改善を図っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 ありがとうございます。今の状況について教えていただきましてありがとうございます。1つこだわりなんですけども、苦情が入ってるってということもちょっと私あまり知らなかったんですけど、苦情だけをそれぞれのセクションに報告しただけでもそれ直るも

のではありませんでして、やはり同じ共通課題として、こういうときにはこういう対応しようという具体的な動きがない限り、この接遇っていうのは変わらないのが、これ、どの一般の企業においても同じですので、もう一步踏み込んだところの、知るところまで分かるんですけど、じゃあ、それに対してどう対応しようかと、お互い職員同士が見ていますので、恥ずかしい場面もあります。当然恥ずかしい場面もありますけど、それを超えて何か新しく動こうということを起こさない限り、きっとできないかなっていうふうにはちょっと思っていますので、ぜひ、そういったほかの方の意見があるようでしたら、それを活用しながらもっとすばらしい接遇にしていだけたらと思います。意見です。ありがとうございます。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子分科員 関連してです。市立病院に来られる患者さんって、個人病院から紹介されて来られるので、やっぱりこの病院が変わってさらにまた診療受けていくっていうのも、とても気持ちが大変なところもあるかなというふうには、どの患者さんもそうだと思うんですけど、でも、市立病院に行ったら本当に、今さっき、岡田委員言われたように、安心っていうか、その人権っていう、患者さんだけでもすごく大切にしてもらってるなっていうことは医療の一つになるのかなっていうふうにはすごく思いますので、ぜひ、今、御答弁ありましたように、そのところ多分市民の方も求められてるし、私自身もそう思いますので、ぜひ、また力を入れて、その部分もやっていただけたらありがたいなと思いますけども。

その中で、ちょっと質問なんですけども、どうでしょうか。見られて、例えば研修をされたとか、何とかされたときに、こんなことで改善されたなっていうか、よくなったなって思われることは何かありますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 網谷センター長。

○網谷憲治地域医療総合センター副センター長 患者サポートセンター網谷です。具体的に何かをして、これが改善したっていうのは、ちょっと今すぐは思い浮かばないんですけども、病院長への提案箱っていう形で意見を取ることもしております、その中に、多くはないんですけども、今回入院して、どこそこの病棟の看護師さんがよかったと思います。ありがとうみたいなのは入ってたりすると、具体的に何がよかったかまでは分かりませんが、少しずつ形になってるのか、あえてそれを書いてみようって思われたぐらいよかったのかなというふうには思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 ありがとうございます。大きな力になっていくと思います。それこそ、この数年前までコロナで市立病院が大変なこの仕事してくださって、今、みんなもだんだん忘れかけていますが、当時のことを思いますと、この施設環境のこととか、また、患者さんへの対応とか、本当に御苦労されてこられたと思ひまして、それでこれからまた事業の改善とか、また、いろんな経営改善とかされていく中で、やっぱり誇りを持ってよかったなって職員の方に思ってもらうためにも、私たちもそういったいい面もどんどんお伝えしていかないといけないなっていうふうには感じておりますし、ぜひ、よろしく願いいたします。意見です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子分科員 先ほどの西尾委員さんが指摘された21ページのところで、令和6年よりも医師奨学金が増えています。令和7年の奨学生の人数、それから先方、議案審議をした関係で奨学金が増える部分があるのかどうかというようにも含めて教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田でございます。医師奨学金につきましては、現在、3名学生に対応中の者がございます。実績としては、今のところは、在學生は3名という形になります。

◆勝田鮮二分科会長 小林副院長。

○小林俊樹副院長兼事務局長 副院長小林です。この投資の部分、医師奨学金の金額に出ているものは、先ほど条例にありましたように義務を果たしていただくと免除になるのでなくなるんですけど、今まだ義務を果たし切れてない人に貸し付けている金額っていうのが出ていまして、7年3月の分は現実的に貸し付けてある分ということになりますし、8年度額が増えているのは、新たに新入学生2人分の募集をかけていますし、欠員分について追加募集というのもしていますので、それが申込みがあっても貸し付けられる金額というのを予定としては積んで、それが現実に貸付けがなければ、また翌年度なんかでは落ちていくというようなことになります。そういう形になっています。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 分かりました。先日、病院報を読ませていただきました。新しい研修医の先生がいろいろ活躍したり、感じたことを書いておられて、非常にフレッシュに素直に書いていらっしゃる文章を読ませてもらって、ほほ笑ましく思いました。今年は併せて研修医の先生方もたくさん増えるっていうことで、本当にいろんなことがあるでしょうけど、一人前になっていただくための研修やら、先方、出ていた接遇っていうことも含めて、やっぱりいろいろしっかり学んでいただきたいなって思います。研修医の先生、たしか8人って言われたんじゃないかと思いますが、どういうふうな形で令和7年度研修を積んでいかれるのか、教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。例年ですと2人とか、学年で1人とかという推移をしておったんですけども、来年度については2年生、ちょっと陸上とかやっておられて、一旦1年で離れて帰ってくる先生っていうのが1人いるのと、あとは5名1年生が入ってくるというようなことで、プログラムについてはそれぞれ提示をして、それを選んで来ていただいていますので、それが、確実に症例がこなせるように努力しながら研修積んでいただくという形になりますが、職場環境とか、更衣室の問題とか、そういったところがありますので、そういったところは人数が増える分、改善をして、受入れ態勢を整えるようなことで考えておりますし、そういったことで初期研修医が学びやすい環境というものを整えていきたいと思っておりますし、今年から先輩の先生がメンターとして必ず1人つくというような指導方法に変えておられて、そういったことも口コミで広がったりしてるんじゃないかなとは思いますが、そういったことで綿密な指導というものをやっていきたいなというふうに考えております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 集団で入ってこられるっていうのは、やっぱり受け入れる側にとっても本当にかつてないことで、いろいろ初めてで大変だと思いますが、やっぱり本当に力にしていけるために、さっき指導医の先生がちゃんとしてっていうことで、指導医の先生たちもぜひいろいろディスカッションして、自分たちの指導というか、そういうもんが力をつけていくことができるような援助になるように、先輩の先生も力をつけていくというか、きっかけになるんじゃないかなっていうふうに思います。

併せて、今まで結構総合診療医とかいうことが市立病院の売りみたいなことがあったと思うんですけど、今回入ってこられる研修医の先生たちは、そういう目当てがあるのか、その辺は教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。特に総合医として学びたいとか、そういったことでは必ずしもないということではあります。ただ、教育センター長は総合診療科のドクターが務めておられて、内科検診も主に総合診療という形で臓器別ではなくて、いわゆる広く全般的に見立てていくというような研修を主にやっていますので、そういった面で、総合診療医を目指したいという研修医は年に1人とか出てくる、自ずとですね、そういう希望される先生も出てきますので、特にそちらに誘導しているわけではないですし、そちらを希望している学生が多いということではないということではございます。

◆勝田鮮二分科会長 いいですか。そのほかございますか、平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。説明資料の2ページのこの来年度の主要事業の中で経営改善に向けた取組、3段目の健診センター人間ドック枠の増による収入確保のところなんですけども、例えば具体的に、この収入確保どれぐらい見込まれてるのか教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。具体的には、今現在より7件程度1日当たり人間ドックを増やしたいということがあって、目標としては1日30件の人間ドック枠という形で維持したいということではございまして、費用に換算しますと7,000万程度の効果を見込んでおるとのことではございます。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 人間ドックで7,000万程度見込まれて、そうすると人間ドック、前回は説明があったかもしれませんが、人間ドックで再検査がいる人がありますよね。そうすると市立病院のほうに、また来ていただくということになると、この入院患者の増につながっていくとかというのがありますけども、その辺は見込みみたいなものがあるのでしょうか。それとも難しいかもしれませんが。

◆勝田鮮二分科会長 小林副院長。

○小林俊樹副院長兼事務局長 副院長小林です。人間ドックを受診した方で二次健診、精密検査が必要になって市立病院のほうに紹介をいただいている割合というのが、今年度途中までは21%ぐらいですかね、前年は25%ぐらいあります。ですので、人間ドック1日30人受けて、そ

れが年間少ない月もあります。大体200日ぐらいはやるので、その患者のうちの20%~25%が二次健診というふうに来受診に回るということになります。7件増えて、それに20%ぐらいを掛けて、一応単純にはじめてみて、外来の診療単価を掛けると大体1,000万ぐらいは増収になるんじゃないかなと思っています。

そこから先は、1回来てそういうことになるんですけども、2度目の外来が続くのか、入院につながっていくのかということ、そこから先はちょっと読めないんですけども、単純にその外来収入だけでも1,000万ぐらい増えるのかなというふうな見通しを持っています。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 私もこの市立病院での人間ドック枠が増えたらいいなというふうに思っていたんですけども、恐らく6月入ったらすぐ申込みされる中でいい方向に行くんじゃないかなというふうに期待していますので、よろしく願いいたします。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 はい、関連で。岩永委員。

◆岩永安子分科員 人間ドック枠の増枠というか、その宣伝をしっかりとやっていただきたいなと思います。そういう予定があればいいですが。

◆勝田鮮二分科会長 小林副院長。

○小林俊樹副院長兼事務局長 はい。宣伝をとということだったんですけど、ちょっと痛しかゆしのところがあります。実は今、希望者を受けられてないという状況があって、6月とかね、電話パンクするぐらい殺到するんですけど、お断りしている割合結構あるんです。ですので、今回の7枠というのは、そのお断りしている方をできるだけ受け入れたいという思いもあってやっている部分もありまして、また、宣伝をしてしまうとより受け入れられないということが、ちょっとその辺1年様子を見て、思ったより希望増えないということであればそういう取り組みしたいと思うんですけど、今はあまり積極的にはしないほうがいいのかなというのをちらっと思っているところです。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 今、人間ドックを受けてる医療機関がもしかしたら減ってるのかなと思ったりするんです。ドクターの関係もあるし、やっぱり健診とっても大事だと言いながら、なかなかそこら辺が充実してないというところがあるんだなと今話を聞いて、ますます思いました。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 ちょっと意見といえば意見なんですけども、さっき岡田実委員からあった接遇の研修ということをこれから進めたいというふうな意見もあったんですけども、できれば、ペイハラ、足立議員が一般質問されたと思いますけども、やはり接遇を一生懸命しても、やっぱり今は患者さんとか、家族の方からのやっぱりいろんなハラスメントがあるんじゃないかと思しますので、この辺も含めての研修をしていただくことを意見として申し上げておきます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副分科会長 開政の加嶋です。平野委員、岩永委員の意見に関連して、経営の状況について改善を図る健診センターのことについて何点かお聞きしたいと思います。この収益増の

施策ではあると思うんですけども、この健診を受けられた受健者の方へ健診結果が早く伝わるという、この質のほうの上昇というのは必要と考えていくんですけども、これについて何か対策を考えられていますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。健診結果、当日診察を受けていただいて、その場の所見といいますか、それをお伝えするようにはしておると思いますので、その時点で数値に異常があったりという方については、やはり受診をドクターからすぐ勧めると、再検査といいますか、ということを進めるということをやっておりますし、実際、結果出るまで3週間程度、医師が所見を入れたり、画像を、読影を複数での医者でしますもので、そういったものに見落としがないか必ずチェックをしてお返しするので、そのタイムラグがありますけども、やはり疑わしい方については早めにお知らせするというので、その場で受診なり、検査を促すということをやっておりますので、そういう形でフォローさせていただければというふうには考えております。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 質問を重ねます。いろんな健康診断があると思うんですけども、鳥取県の国保連合会では市町村が実施する特定健康診査の診断結果がデータで反映されるようなとっと健康+プラスというアプリケーションを導入されております。鳥取市立病院ではこの健診結果について、今、紙の通知で、私も人間ドック市立病院で受けるんですけども、本当2時間以内にはその血液検査の結果はその場でもらえて非常に助かっているんですが、こういったものもデータ配信といいますか、今後提供する方法についても検討が庁内でなされているのかお聞きします。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。恐らく国保連さんのアプリというのは全県下で国保の方が対象になっていると思いますので、特定健診は、もう検査項目が決まった検査の結果が流れるという形になりますし、あと、法定検査ですので、マイナンバーで個人認証ができたりとか、そういったところがあるとは思いますが、病院単体でこれをやろうと思いませんと、なかなか認証とか、セキュリティーの問題とか、要配慮個人情報に当たりますので、そういったサービスを構築するのになかなか困難な部分があるのかなと思ったりしておりますので、今のところはちょっとその辺りのコストはかけずに早く結果を知らせるという方向で努力していきたいなというふうに思っております。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 お答えいただきました。質問をちょっと業務のほうに移させていただきます。もう、令和6年度の分科会の委員長報告のほうでも診療体制の充実で、このロボット等の医療機器の更新のことが報告をされたと思うんですけども、この導入時期がどうしても令和6年度の後半で、中にはこの4月以降実施導入というのもあったと思うんですけども、この令和7年度の患者数を見込む上で、算定するとき、この機器の効果というのは反映されたのでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 小林副院長。

○小林俊樹副院長兼事務局長 副院長小林です。6年12月に7年度に向けて医療器等導入する、整備をするということで2点ほど補正予算組ませていただきました。1つは、内視鏡システムを1台増やして、内視鏡室も1台整備をして内視鏡を撮れる枠を増やしていく、これが先ほどから話題になっていますドックの7枠増というものにつながってまして、予算的には対前年度7,000万円の増収というのを予算に反映しています。

それで、もう1点が整形外科の手術支援ロボットということで、導入して2月、3月に入ってきているんですけど、こちらについては人工股関節、それから人口膝関節の手術に使うものなんですけども、ロボットがなくても実際そういう手術は実施をしていますので、ロボットを入れたからすぐ収益につながると言にくいものなんです。ですので、ロボットを入れることで股関節の手術なんか1件当たり3万8,000円という上積み単価が高くなるというのがありまして、それが年間200万円程度のものなんですけども、そういう単価アップ分のみを反映していて件数増までは反映をさせていないというような予算にしています。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 質問を重ねます。鳥取市立病院ユーチューブのチャンネルを持たれていて、その動画の一番多い再生回数って140万回再生されたんですね、角田裕章医師が当時人工関節についてというようなことで、もう8年前の動画なんですけども。それで、市民医療講演のものは毎年されているんですけども、動画上げたら累積して1万回以上再生されているようなものばかりで、本当にコンテンツとしては周りから注目されているものだなというふうに私、感じるところなんです。そういったところで、動画で発信していくのもやはり大事だと思いますが、この機器導入の動画もその中にはありました。それで、さらなる機器導入をこれからも研究されて先生たちのために整備はしていくとは思いますが、この導入効果を、今、言われたようにその患者数のほうには反映はしにくいけれども、手術数、手術の費用が増ということで増収のみという検証を今後も続けていかれるのか、ものによってはそれは変わるというのか、その辺ちょっと教えていただけますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 小林副院長。

○小林俊樹副院長兼事務局長 副院長小林です。医療機器導入する場合にどういうふうに費用対効果考えていくかというのはとても重要なことなんですけども、近年、導入してまずダヴィンチとか、それから今回の整形のロボットについては、先ほども言いましたように、なくても同じ手術をですね、ダヴィンチにしても腹腔鏡の手術であったり、それから開腹手術であったりしていましたし、整形もロボットがなくてもやっているということがあるので、単純に収益増ってなかなか見込めるものではないんですけども、その中で思い切って入れるためにはどういう観点で決めていくかということで、ある程度私たちのほうでは目安を持ってやっています。

1つには機器導入費用と保守料は何とか賄いたいなど、目立った大きく増収がなくても、機器を導入した費用、減価償却していくものと、それから保守経費、これを何とか増収していかねばいけないということは考えています。それから、将来的にこの東部2次医療圏、人口が減ってきますし、今、まだ高齢者増えてますけど、いずれは減っていくということがあるの

で、そのときにこの今回入れたような整形の手術ロボットとか、ダヴィンチのようなものを持つてことで、人口が減っていく中でも、うちの病院の患者は減らさずにいられるかどうか、ほかの病院も同じように、今、患者を診ていますけど、どこかが減っていくという状況になるので、そこで減り幅を減らすためには役に立つのかどうか、こういう視点も持っています。

それからもう1つ、今、こういう時代でどんどんこういう手術支援ロボット入ってきつつありますけれども、大学病院がその医師を派遣するに当たって、大学医局の手持ちの医師というのはどんどん減っているんですね。その中でどこに派遣していくかという選別が始まっています、そのときに派遣する価値があるかどうかということをやっぱりかなり考えてきているというところがあるので、ダヴィンチを持っているとか、この整形の手術支援ロボットを持つてるといことで若手の医師を派遣してもいいんじゃないかというモチベーションになる可能性がある、そういうものに使えないかということを考えています。現実的にそのダヴィンチを導入したことで20代の医師が自ら希望してきましたという医師が今、来ていますし、それから女性の泌尿器科医1人増えてダヴィンチを主に使う泌尿器科へ1名増員になったというような効果も出ています。

それから、整形のロボットを入れるに当たって岡山大学の整形の医局に今の診療科長に確認したところ、そういうものを入れるのであれば若手の研修機関として居続けてあげてことを考えるよというようなニュアンスの発言もいただいていますので、そういう視点というのがあります。ですので、先ほども言いましたように、その単純な収益増以外の効果をまず見込む、その中で少なくとも赤字を増やさないだけのものは確保できるかと、そんな観点で今、判断をしています。

今回の整形のロボットを例にすると導入費は約9,000万円、こういう先進医療機器は市が繰出金で2分の1負担してもいいということになっていますので、実際病院の負担4,500万円ということになります。それで、現実的にこういうものを10年は必ず使っていくので、1年当たり450万円、それから保守料が1,000万ぐらいかかってきますね。なので、1,450万は増収しなければいけないということで、同じ件数であれば200万円ぐらいしか増えないので、あと、1,200、1,300万は実際増収をする。その中で、この手術を実施することで1人の患者が250万円ぐらい1入院でもらえるので大体6人、今、年間60人ぐらいこの手術をしているのでそれを66人に持っていけば赤字は増えないということで、具体的には1割の6件を増やせば赤字が増えないということで、6件ぐらいなんとかなるんじゃないかという思いもあって導入したというような経緯です。これでより一層評判が上がって手術が増えればもっといいことなんですけども、最低限6件増やせたら病院にとってはそれほどダメージがない、こういうような判断の仕方です。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 開政加嶋です。お答えいただきましたので、ちょっと意見として言わせていただきます。単年度の収益の増減というアウトプットはこの資料を見させていただいたら、各委員本当に理解できると思うんですけども、今、副院長に説明いただいたようにアウトカムですよね、その数字には出てこない費用対効果というものがきちんとあって、市としては機器

導入のところでは2分の1も負担っていうのがあるんですけども、でも、当然導入後の維持管理費というものも必要なわけなので、その部分も市のほうがある程度導入後も予算措置などをして見ていってもいいのでないかなと、その1割手術が増えるということは、1割早く治療が行われる人が増えるということで、市民のヘルスケアには必ずつながっていくものですので、それが医療連携の、福祉のほうで言わないといけんのかな、というようなところですけど、そういうのがありました。

本当に平野管理者、冒頭に説明いただいたんですけど、今年本当に大変だったと思います。7億円の赤字を見込まないといけない予算書を出さないといけないっていうの、本当にづらい気持ちだろうな。見させていただいたんですけど、人勧のことは見たら人件費が単年度で比較したら、1億9,200万単純に上がっていて、材料費のところを見たらここが1億2,000万円ぐらい普通にスライドをしているので、それだけでも3億のことはなっていくっていったら、実際の足り苦しいところは3億5,000万だとか、3億円ぐらいのものが努力しないといけない部分なのか、そこをどのように埋めていくかということで単年度で出ない、複数年かけて必ず収益が繋がっていくだろう、減り幅が減っていくだろうというふうなリスクヘッジもされているということをこの資料に一言、足していただくとか、説明のときに言ってもらえると、委員の議論もより深まって、なおかつ執行部にこういうところの予算をつけて上げてほしいっていうのを具体的に言いやすかったりするのかなと思いますので、意見として言わせていただきます。

最後の質疑にするんですけども、1点だけ、岩永委員が説明されて1年生が8人初期研修医として入られるということで先ほど説明を受けたとこなんですけども、でも、令和4年がお二人、令和5年1人、令和6年3人、令和7年8人ということで、先ほどスポーツから戻られた方っていうのも聞きましたけども、急に増えた要因というのが、先ほど説明されたこと以外にあるのであれば教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。これといって何がっていうところではないんですが、3年ぐらい前から学生さん見学とか、病院見学、それから実習の受入れ、これは積極的にやっついこうということで、大体年間50人程度学生さんが来られるんですけども、今回5名新しく初期研修医になられる方はみなそこを経た方でございます、1人は奨学金の対象者でもあるのでダブルで重なっていますけど、まさに岡田委員がおっしゃったように、ホスピタリティーといいますか、その辺りをしっかりやっついこうということで来られた学生さんにそれなりのドクターというか、先輩でちょっとそういうおもてなしの精神のあるドクターをつけたり、あと、今年からランチミーティングということで先輩の1年生、2年生の研修医と一緒に御飯を食べながら、市立病院のことを説明してもらったり、うち、いいよっていうような宣伝をしてもらったりっていうのを始めましたんで、そういったことで少しずつ効果が出たのかなというふうに思います。実際、1次選考の応募には3人しか来なかったんですけども、どっかの病院で外れてやっぱり市立病院にという方が2人追加で来られたという経過ですので、そういったときに実習の経験というのが生きたんじゃないかなというふうに思っていますので、まさに、

ホスピタリティーかなというふうに思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副分科会長 お答えいただきました。意見だけ言わせていただきます。8人の初期研修医さんを受け入れるということで、担当の医師さんであったり、看護局も負担が生まれるかもしれないませんが、その辺丁寧にケアして負担感が現場で起きないようにお願いしたいなと思います。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二分科会長 それでは以上で質疑を終了します。市立病院の皆様はここで退席ください。

分科会長報告の取りまとめについて

◆勝田鮮二分科会長 それでは分科会長報告に盛り込むべき事項、できれば事業の確認を行います。意見等ありましたら順次、発言をお願いします。西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 岡田実委員さんが言われた、やっぱり接遇ホスピタリティー、接遇なんですけども、これと私、自分で言ったことを言うのも何かあれなんだけど、ペイハラもやっぱりちょっと今、いろんな福祉の部分、病院の分でも課題になっておりますので、この辺のしっかりした研修を進めていただくというようなことを言っていたらと思いますが、1つはですね。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 暫時休憩します。

午前11時1分 休憩

午前11時10分 再開

◆勝田鮮二分科会長 それでは再開します。西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 もう1点、私が直にどうして経営改善につながると思ったのは、そういう機械も入れて、若い医師と。まず、医師の確保じゃないかなと思うんです。今回、8人入れられるということなんで、しっかりこの人たちを育てて次の医師確保に向かっていたきたいという思いを言ったらどうかと思いますけどね。この辺をしっかりと話されましたが、8人のあれでしっかり、人もいて、昼食も取りながらやったんだと、そういうのをね、それがやっぱりこの勤めてというかね、1年間たったら、やっぱりここいけなんだわって出してもらって困るんです。だけ、ここら辺をしっかりと病院で育てていただいて、8年度の採用に、また7人とか8人とかね、つながっていったらいいなと思って、そこら辺のことを言ったらどうかと思います。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田信俊委員。

◆岡田信俊分科員 全く西尾委員と同じ意見ですけども、本当にさっきの言われた医師確保のこととかね、委員会ならではのやり取りだったと思うんですよ。議場で聞くようなことではないことが、生々しい、いい話が出てきたっていうのは、ぜひ伝えるべきだと思うんですけどね。

以上です。

- ◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岡田実委員。
- ◆岡田 実分科員 今の議論といたしますか、話し合いを聞いていて、私も賛成です。これは1つですか、2つ。2つでいいです。私も医師確保の件は賛成であります。それだけですけど。
- ◆岡田信俊分科員 すみません。もう一度。
- ◆勝田鮮二分科会長 岡田委員。
- ◆岡田信俊分科員 ごめんなさい。1つ上げるんですか、2つ上げるんですか。
- ◆勝田鮮二分科会長 事務局。
- 毛利 元局長補佐 市立病院の項目で1つということであれば、今言った2つの課題を入れることは可能かと思うんですけど。ただ、もう1つ確認として、医師確保の件については、どこまで御発言があるかどうかを確認させていただいて、どういう書きぶりができるのかどうか、今言ったような御発言の趣旨が見つけられればそういう方向性でいけると思いますし、あとは、そこまで言ってないけど、それっぽいものまでだったら、ちょっともしかしたら弱まるかもしれませんが、それをまた正副委員長と御相談させていただきながら、ちょっと検討をさせていただけたらと思います。以上です。
- ◆勝田鮮二分科会長 どうぞ、西尾委員。
- ◆西尾彰仁分科員 2つをね、さっき事務局が言われたように接遇の部分、ちょっと弱いかもしれんけど、その部分と医師の確保なり養成を図っているんだよということがありましたんで、それをしっかりやっていただいて次年度につなげるというようなことを、全部頭の中にしゃべられたことが入っておりませんので、皆さんのあれですけど、事務局と委員長、副委員長の辺でちょっとまとめていただけたらと思いますがいかがでしょう。
- ◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。
- ◆岩永安子分科員 いいと思います。8人研修医が入ってくるなんてことは、かつてないことだと思いますので、育てていただきたいし、その8人入ってくるに当たっては、3年前から見学や実習の受入れを積極的にやっていったというようなところがね、やっぱり確保につながっているんだと思いますので、はい。いいじゃないでしょうか。
- ◆勝田鮮二分科会長 それではいろいろ意見も出ましたですけども、接遇の辺りと、それと医師確保を絡めての辺りをちょっと、そうしますと文章化については正副分科会長に任せていただくことでよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ声あり）

- ◆勝田鮮二分科会長 はい。それでは福祉保健分科会を一旦休憩します。

福祉保健委員会に切替え 午前11時10分 休憩
予算審査特別委員会福祉保健分科会に切替え 午後1時10分 再開

- ◆勝田鮮二分科会長 それでは始めさせていただきます。

議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算について（質疑）

◆勝田鮮二分科会長 それでは議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算のうち、本委員会の所管に属する部分の質疑を行います。質疑、意見のある方は順次発言をお願いします。岡田実委員。

◆岡田 実分科員 事業別概要書の100ページの上段にあります民生委員事業費についてでございます。民生児童委員に関する業務の中なんですけども、県から委譲されている業務という業務なんですけども、どういった業務が民生委員さんの業務に当たるだろうかっていうところを教えていただけたらと思います。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。民生委員さんの業務ということのお尋ねでございました。まず、県からの委譲ということを先ほど岡田実委員おっしゃったんですけども、特に県からの委譲という事務は、例えば、いろんな事務が中核市になって委譲されたとかってというようなことでの県からの委譲というものではなく、もともと、民生委員の業務というのは、民生委員法に定められているような業務ということで御理解いただけたらというふうに思います。

その業務の内容につきましてはたくさんございます。いわゆる地域でのそういった見守りだとか、そういったいろんな高齢者を支えるような取組であったり、相談を受けたらそれを行政機関につないでいただいたりとかいうような業務、あと、そういった法に基づかない、いわゆる地域での活動ということで、いわゆる地域の役員さんとしていろんな行事に関わったりということは、実際の中ではそれぞれの地域の中で行われているといったような実態もあるようではございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 はい。重ねての質問なんですけども、この質問をさせていただいたその背景には、いろいろ民生委員さんの方からお話を伺うに当たりまして、1つ目の課題として、引継ぎの場面でうまく引継ぎができなかった方々からの話を伺うわけでなんですけども、例えば、何が民生委員さんの仕事なのかということで、その方が持っていた資料とか内容によりまして、高齢者世帯の65歳以上の方なのかどうなのか、一人暮らし、高齢者なのかとか、認知症なのかとか、寝たきりの高齢者なのかとか、いろいろあるんですけども、そんな中でも例えば生活保護かどうかを、その方の内容、調べる内容があったりとか、生活福祉資金の借受け世帯なのかどうなのかっていうのが、その調べ物の中に書いてありまして、それを見た民生委員になられた方はそういうことを本人に聞いていくんだろうかみたいところの、とても不安があるような内容があったわけです。

さらにその方から資料もらうと、地域住民による見守りネットワークとかある中で、そのこの地区の区長さんや町内会長さん、となり組福祉員のお名前、愛の訪問協力員の名前、あるいは遠くの親族、または近所の方、その方に対してですね、そういうの一つ一つが個人情報といいますか、名前として具体的な内容を聞かれるものについての引継ぎと、また、引き継いだ後の行う業務がすごく迷われてる姿がある中で、ちょっとそれを聞いたわけでございますけども、

例えばそういった業務は、こういう業務だということ、さっき次長さんがおっしゃいましたその地域の独自性のあるものは独自性のあるもの。けれども、これ民生委員さんとしてはラストだよっていう、ここは民生委員さんの仕事ですよっていうところの明確に分かれたようなものっていうのが、この事業の中では確立といいますか、整理はされていますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。岡田実委員さんおっしゃったように、例えば独り暮らし高齢者の方とか、寝たきり・認知症、あるいはその生活保護の受給の世帯の方とかっていうようなのを、これは世帯類別調査ということで、毎年各地域のそういったいわゆる統計的な数字を報告するようなものがございますので、それは定められた業務として位置づけられております。あと、その見守りネットワークということで、これもそれぞれ地域によつてのやり方というのはいろいろまちまちあると思うんですけども、例に上げますと、独り暮らし高齢者の方の緊急時の連絡先としての親類の方であったりとか、御近所の見守りを実際される方のお名前や連絡先であったりとか、そういったものをいわゆる台帳的に整理をされて、そういったものを順次引き継いでいかれているというようなことをやっておられる地域もあるようにも承知はしております。

こういったものも、いわゆる先ほど少し例に上げました、その地域での見守りであるとかっていう本来の民生委員さんの役割の1つであろうというふうにも考えております。民生委員の皆さんには、まず、県が作っています、いわゆる民生委員の手引といったものを皆さんにお配りをしておりますし、鳥取市は鳥取市の民生児童委員協議会という会があるんですけども、そちらのほうで独自にその民生委員さんの活動の手引というようなかなり分厚い冊子を令和4年の一斉改選のときにつくられました。それで、このたびのまた、令和7年度一斉改選でございますので、それに併せて、それを改定するようなものもつくっていくという予定にされております。

その中にはそれぞれ法律に基づいた業務であるとか、あと、それぞれ民生委員さんが普段の活動で悩んでおられたりとか、疑問に思っていることをQ&A方式でまとめられた、そういったものもつくって、それぞれ民生委員さんに持っていただいているといったような取組もされておまして、特に新任の方が特に不安があられると思うんですけども、そういった方々の少しでもそういった不安感の払拭であったりとか、実際の活動に役立てていただくような、そういったものも協議会のほうでつくっておられまして、市としてもそれを支援する形で印刷代のほう市のほうで負担したりとかっていうようなことも、このたびの予算の中に計上をさせていただいております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 詳しくありがとうございました。そういった中で、今回、改選の年になってるわけなんですけども、その成り手不足ってところが、これ全国的な課題になってるところなんですけども、その成り手不足に対する対策、対応っていうものについては、この事業の中で何かされていらっしゃるってことについてはありますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 はい。その件に関して総括質疑の場でも御質問をいただいております。この予算の中に特にこういった事業で、いわゆる民生委員の確保ということで、こういった事業やりますというような、特別な予算の計上というものはいたしていません。やはり地域で推薦をしていただくというのがまず第一になりますので、やはりそういった地域の方々に民生委員さんのお仕事だったり、役割だったり、そういった重要なポジションを担っていただいているんだというようなことを説明させていただきながら、地域での推薦につなげていきたいと、まずこれが一番だろうと思っております。

また、もう1つとしてはやはり高齢の方がたくさんいらっしゃるんですけども、中には仕事をもちながら民生委員になっていただいている方もいらっしゃいますので、そういった方々、いわゆる勤務先の理解を得ながら活動に従事していただけるというようなことをちょっと期待して、希望者に限ってなんですけども、いわゆる会社の雇用主さん宛てに民生委員さんとして活動していただくに当たっての御理解、御配慮をお願いしますといったような文章を前回一斉改選のときには出させていただきましたので、そういったことも今回は同様にさせていただきたいというふうには思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 はい、分かりました。根本的な成り手不足にはやっぱり課題があると思っております。相当の負担感があるわけなんです。今まではその地域の中でそれなりの名士と言われる方が定年退職をおった後に、自分でも働こうかというところもあるんですけど、今、こうやって定年も伸びてきている中で、抜本的な対策を打たないと次の成り手っていうものが育たないと思うんですけども、そんなときに報酬といいますか、どうしても予算のところあるんですけども、その報酬っていうのはもうこれはちょっと分からない質問なんですけど、決まっています、それ以上もう上げることもできないし、あるいは実費負担であったりとか、何かそういう違う意味での民生委員さんを支援するようなそういう内容っていうものはないものなんでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。今、その民生委員さんへの報酬というか、そういった手当的なものをというお尋ねでした。まず、民生委員につきましては、民生委員法のほうで無報酬ということが定められておりますので、そういった手当というようなものはございません。ただし、活動費の実費弁償といたしまして、今、鳥取市は年間6万200円を支給しております。ガソリン代だったりいろんな御自身の電話使われたりとかいろんなことで費用がかかりますので、そういったものの実費弁償をという意味合いで、年間6万200円という金額を支給しております。

この金額につきましては、国のほうの特別交付税の措置をされる目安が6万200円ということで、それを上回って出している自治体もあるかとは思いますが、大部分のところは6万200円というものを基準で支給しておられるんじゃないかなというふうに考えております。また、個人の民生委員さんへのそういった支給以外にも、この民生委員事業費ではないんですけども、先ほど申しました鳥取市民生児童委員協議会という会があります。それぞれの地区単位

で、単位民児協といっているんですけども、地区の民生児童委員協議会、こちらのほうにも一定の額を、その協議会の活動として補助のほうをさせていただいているという実態がございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 はい。ありがとうございました。あと、すみません、もう1点でこの質問終わりたいと思うんですけども、この民生委員さんを取り巻く今の環境の中で、例えば見守りサポーターさんという名前の方が周りに役割を持ってそういう制度ができたりとか、となり組の福祉員さんであったりとか、いろいろサポーターであったりとか、様々な方が周りにいらっしゃるわけなんですね。さらには自治会、自治会長さん、区長さんですね。区長さんであったりとか、あるいは自主防災会の会員であったりとか、そこには民生委員さんが対象としている方が、例えば避難行動要支援者の方があったりとかいうことで、様々なところから絡み合っている形があるんですね。

それで聞くと大体1人の方が重複している場合もあるのかなと、地域の中では。こちらの役所のほうから見ている名簿の中では重複していない場面があるかも分からないんですけども、地域の中ではやっぱりそれなりに声のかかっている方もあったりするんですけども、そういった、これはあくまで課題点ではあるんですけども、そうすると私、住民さん側から見ていると、どういったことをすることが民生委員さんなのかっていうところがだんだんぼやけて、ほかのサポーターさんとかとみんなぼやけてきていて、これって地域共生社会だっていう中で、どの場面でも絵は出るんですね。きれいな連携の絵は出てくるんですけども、その中に民生委員さんとか、そういう支えるものの絵が出るんですけど、それを地域のその人の目線から見るものとして、なかなか見えない部分があったりするんですけども、そういったところをこの事業の中で、明確にその絵を仕分けというわけじゃないんですけども、誰かがどこかでそのその手綱というか、交通整理をしなきゃいけないと思ったりもするんですけど、そういったことっていうのは、この事業の中で可能なのかどうかも含めた全体の話にもなるんですけど、ちょっと所見といいますか、お伺いいたします。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。今、お尋ねくださったそういった諸々の取組は、この民生委員事業費の中では予算的にも組んでません。あと、今、岡田委員さんおっしゃっていたような、その地域での福祉のネットワーク、ちょっと御紹介いただいた丸の円が書いてあるような絵ですね、ああいったものをやっぱり具体化、各それぞれの地域の実情に応じた具体化を図っていくためには、まず、一度ですね、そういったパッケージといいますか、スキームを一度つくってそれをそれぞれの地域のほうにお示していく必要があるのかなというふうに考えていまして、そのためには、おっしゃったようにやっぱり実際、住民さんで活動しておられる方の意見を聞かないと、行政だけでつくれるものではないと思っていますんで、そういった取組を、ちょうど地域福祉推進計画が今年度策定、7年度から本格的に動かしていかななくてはならないという場面で、そういったものをつくり上げていくのがまず先だろうというふうに思っています。

そのためには、先ほど御紹介いただいた民生委員さんだったり、となり組福祉員さんだったり、いわゆる町内で活躍されてる方、そういった方々の声をやっぱり拾い上げてつくっていかないといけないなということで、そういった場면을7年度にはつくっていきたい。それをある程度形にできたら地域に示して行って取組のほう進めていきたいなというふうに考えております。そういった中で、それぞれの役割というものが、民生委員さん1人が抱え込まなくても大丈夫だよとかいうような安心感につながったりとか、そういった役割分担なんかがある中でできていけばいいのかなというふうに思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岡田実委員。

◆岡田 実分科員 ありがとうございます。ぜひ、地域の中で暮らしやすい環境づくりの中で、民生委員さんも1つの役割ではあるんですけども、ほかと連携した形の中で暮らしやすい地域づくりのために頑張っていたきたいと思っておりますし、私たちもまた、地域の中で聞いていきたいと思っております。ありがとうございます。

◆勝田鮮二分科会長 そのほか、ございますか。西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。私、この保健分科会の説明資料の中で聞かせていただきたいと思っております。総括質疑とか、この概要書にはない部分なんですけれども、13ページの重度障がい者（児童）タクシー料金助成費ということで1,386万1,000円ですか、計上されていますが、これ、来年度は障がい児又は障がい者何人くらいの方を予定して、どれくらいの金額を見積もりの積算根拠とされているのかということ、実際、市役所でも結構止まっておられてタクシーで来ておられる方も障がい者の方もおられるので、この辺りのその積算根拠の辺を教えてくださいませんか。

◆勝田鮮二分科会長 枡谷課長。

○枡谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枡谷です。西尾委員より重度障がい者タクシー料金の助成事業ということで御質問いただきました。こちらの事業につきましては、身体障害者手帳の1級2級又は療育手帳のA、精神障害者手帳の1級、そういった重度の方で、住民税非課税の方でタクシーの初乗り料金相当分が無料になるチケットを月4枚お渡しするものでございます。これまでに令和4年度966名、令和5年度968名と、6年度見込み968名というような格好で1,000名弱の方にチケットをお配りしているところでございます。何人というよりは、利用枚数の実績に応じて平均値で予算計上しておるものでございまして、令和6年度の見込みでは大体月に1,400枚程度ですね、そういった形での。1,446枚3月は見込んでおるところでございまして、来年度も同じような形でその辺りの枚数になるのではないかとということで予算を計上しているところでございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。重度障がいの方の初乗り料金ということでございます。これは初乗り料金っていうことになると、数百円の単位になると思っておりますけれども、長距離から通われるような方のほうは、何かほかに救っていただくような制度っていうのはあるのでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 枡谷課長。

○枡谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枡谷です。こちらの重度障がい者のタクシー助成事業

につきましても、初乗りということで、今は大体740円になっております。そのほかにつきましては、本市の制度ではありませんが、障害者手帳を提示すると1割引になるというような制度もあります。そのほかタクシーではありませんが、JRですと100キロ以上でしたら半額になるとか、そういった制度もありますが、本市としてはこの重度障がい者のタクシー助成事業ということで障がいのある方の外出等々の支援を行っているというところでございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。分かりました。本来、1割とか、半額とか言われても重度障がいの方がなかなかJRとか、それ乗るのが難しいと思うんです。国とか県の制度と考えながらとは思いますが、鳥取市広うございますので、それこそ佐治の奥から青谷の奥まで、そういう方が通院とかされるときにタクシーを使っても支援ができるようなことも今後、少子高齢化が進んでいきますので考えていただけたらと、これは意見として申し上げておきます。

次にもう1つ、オアシス広場っていいですか、同じ17ページなんですけども、砂丘ふれあい会館の管理費ということで、昨年度の要求は3,700余りですが、今年5,148万、かなりの高額になっているんですけども、これのちょっと増えた理由と今の7年度の管理をどういう具合に考えておられるのか、その内訳も教えていただけないでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 松本課長。

○松本 縁長寿社会課長 長寿社会課松本です。この砂丘ふれあい会館の管理費は、指定管理者への委託料となりまして、7年度から光熱水費の増加っていいですか、そういったことに負担が大きいうことで指定管理料を増やしております。それからあと、人件費のところですけども、人件費のほうも負担金のほうを増やして、委託料のほうを算定しておりますので、大きなところは光熱水費のところと人件費のところの委託料のほうを増やしたということで、ほかの指定管理施設につきましても同様の積算をしておりまして、それぞれの施設に合った光熱水費ですとか、人件費の分をちょっと増額したような7年度以降予算となっております。それで、特にこの砂丘ふれあい会館っていうのは、プールと温泉とございまして、ほかの施設よりもどうしても光熱水費の部分が大きくなりますので、予算としてちょっと増える額が大きくなっているところです。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。プールっていうか、温水プールっていうんですかね、あれがありますので、それはかなりの光熱水費が上がる。ほかのところよりちょっとアップ率がかなり高いのでここが、ちょっと気になったところでございます。

続いて、すみません。15ページの25番軽費老人ホーム運営補助金っていうことで、1億6,700万、ほとんどがこれ、全て一般財源で長寿社会課さんですね、これも。この内訳を教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 松本課長。

○松本 縁長寿社会課長 長寿社会課松本です。この事業につきましては、社会福祉法人が設置する軽費老人ホームに対しての助成ということになるんですけども、内訳なんですけれども、

ちょっと予算の査定が入っております、うちのほうで計上した予算の数字といたしますか、その数字になるんですけれども、その数字でいきますと、うちのほうは6年度の決算見込みを踏まえまして予算のほう要求させていただいております、その額といたしましては、7つの施設がございます。まず、施設名と金額を言いますと、いなば幸朋苑さんに対して2,047万1,000円、それから新しいなば幸朋苑さんに対しまして、これは2つの施設を1つと考えております。200万5,000円、それからあすなろさんに対しまして3,614万5,000円、ひまわり鳥取に対しまして3,473万3,000円、暖の里さんに対しまして4,922万5,000円、それで、暖の里新館さんに対しまして4,769万4,000円、予算要求額としましては1億9,027万3,000円を要求させていただいておりますが、前年度の決算見込みということで、査定のほうが入っております、現在資料に掲載しております金額を予算要求させていただいております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 査定の状況はちょっと概要書とか見て見ないと分からないものですから、それだけちょっと実績で減らされて本当に大丈夫なんかなってという思いはしました、今、聞いて。光熱費とか、いろいろ上がっている中で、ただ、これ全部一般財源で交付税措置とかないんですよね、これ多分ね。だから、ちょっと厳しい査定になっておるのかなってという思いはしましたけれども、ちょっとその辺りでもし、お願いします。

◆勝田鮮二分科会長 松本課長。

○松本 縁長寿社会課長 長寿社会課松本です。この軽費老人ホームの補助金につきましては、交付税措置がありますので、ちょっと金額のほうはあれですけども、ございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 交付税措置というのは普通交付税。特別交付税か、そこはちょっと財政のほうに私が後から聞きましょうか。交付税措置もいろいろあるんで、何ぼとか、特別交付税なんか特に分かりにくいので、どれだけ入るとるかというのはありますけれども、これだけの支援をされとるということであれば、査定で1億9,000万からかなり切られておりますので、この辺はまったりちょっと適正な金額を本来は上げていただきたいなという思いはあります。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 今のは、意見でいいですか。

◆西尾彰仁分科員 意見で結構です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岡田信俊委員。

◆岡田信俊分科員 失礼します。事業別概要書の102ページの上の段です。避難行動要支援者支援制度普及促進事業費というところですけども、まず、最初にその欄の一番下に事業の実績というところで、制度の登録者数が、これずっと減りようなんですけども、何か分かっておられる理由がありますでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。事業の実績欄で年々登録者数が減っているということのお尋ねでございます。まず、毎年登録者の方が亡くなられたりとか、施設に入られたりとか、鳥取市外に転出されたりということで、数百名の方が減っています。それで、

新規の方っていうのが100名に満たないような、年によって90何名とか、60何名という方が新規に登録されているということで、その差分が毎年減っているというような実態でございます。

◆勝田鮮二分科会長 岡田信俊委員。

◆岡田信俊分科員 分かりました。ありがとうございます。私もちょっとこれ委員会というよりも地域住民として聞くというようなことになるんかもしれんですけども、この、いわゆる事業の目的として障がいのある人や要介護者などの要支援者が地域の共助により支援を受けられる体制づくりということがありますが、その辺いわゆる町内会をお願いをする立場で、減ってくるっていうのが何かあまり頼んでもいけんわいやっていうようなことがありゃへんだろうかと思って、ちょっと恐々と質問したけども、そうではないということのような解釈を勝手にしまして、それで、ちょっとここのいわゆる体制づくりっていうところですけどね、どの辺までをどうしていいだろうかということ地域の人たちと話をすることがありまして、ごめんなさい。ざっくりですけど、そこらをお願いします。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。まず、この避難行動要支援者の制度につきましては、毎年、自治連の地区会長会、あと、民生児童委員協議会のそれぞれの会長さん方にもこういった制度がございますのでということでお願いをさせていただいております。そうした中で、やはり岡田信俊委員おっしゃるように、地域もどう動いていいかなかなか分からんわいやという声もお聞きしています。

また、やはり自治会の未加入の方がいらっしゃるけど、どうしたらいいだろうとか、そういったような声も聞かせていただいております。そういった中で、今この事業別概要にあるこの事業費の中で、何かそういった事業の経費を積算しているというわけではないんですけども、これも、この地域共生社会を進める地域福祉推進計画を進めていくという中で、1つ目標として、重点取組としております、いわゆる地域の防災力の向上ということ掲げておまして、やはりその地域住民の方々がそういった支援を必要な方を、平時の見守りから、実際、災害が起きたときのそういった助け合い、支え合いというようなことができる体制づくりのための、パッケージですね、そういったものやはりつくっていく必要があるかなと思っています。

それは、このいわゆる支え愛マップというものがございますので、そういったものをまず作る仕組み、あと、この避難行動要支援者の仕組み、それと各地区の自主防災会などがやられる避難訓練とか、そういったもの、そういったものがきちんと連動していかないとそれぞれ別々にやっても駄目だろうなというふうに思っておまして、そういったものが連動できるような、そういったパッケージなりを、やはりこれもそれぞれ地域のほうに、一緒に話し合いながら示していけたらなというふうに思っております。その中で、先ほどの民生委員さんのとこの話でもしましたけども、それぞれの役割分担であったりとか、連携というものが地域の中でつくれるような、そういったものを一緒になって考えていきたいというふうに思っております。

◆勝田鮮二分科会長 岡田信俊委員。

◆岡田信俊分科員 ありがとうございます。よく分かりました。私も地域の方が数人いらっしゃ

って、私の町内といいたいでしょうか、余分に声かけたりといいたいでしょうか、携帯に電話は入れといたりとか、そういうぐらいなことは心がけるとつもりですけども、本当にそれがいいのかどうかってなことちょっと悩んだものでして、あと、地域の人たちやそれこそ民生委員さんなんかとも話をしながら、また、考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子分科員 事業別概要 111 ページの上段の、先ほど西尾委員さんは障がい者のタクシー送迎のことを聞かれたんですけど、これは医療的ケア児等送迎支援事業費、県の制度に符合して市も半分出すという制度です。前年度は536万4,000円で今年度は50万4,000円ということで10分の1になっています。利用が少ないという話もお聞きしましたが、その原因は何だというふうに思っておられるでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 枘谷課長。

○枘谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枘谷です。岩永議員より、医療的ケア児等の送迎支援事業費のことについて御質問いただきました。こちらにつきましては、医療的ケア児の方ですね、医療機器や酸素ボンベやモニター等々そういった荷物も多いということで移動時に大型の福祉車両を必要とされる方が多くて、一方で、そのタクシー積み込みができない、タクシーが少ないということで経済的負担を含めて課題になっているというような現状がございます。

こちらにつきましては県と協調の事業にはなりますが、保護者の方が送迎費用の2分の1ですね、それで、自己負担上限額は2,500円を負担いただければタクシーで140キロ以内まででしたら行けるというような制度でございますし、あと、看護師さんを同乗されたときに本人さんは500円だけ負担すれば、あとは県市で負担するというような制度になります。この医療的ケア児の方はストレッチャーとか、リクライニングのちょっと特殊な重い車椅子に乗られた方を対象としておりまして、昨年度初めて新規で開始をしたところでございます。事業の開始に当たりましては医療的ケア児の方のアンケートを行いまして、当時は大体15名程度の利用が見込まれるのではないかとということ想定しまして、15の方が毎月2回であれば大体1回3,000円として108万、看護師さんが同乗した場合には1回当たり大体2万1,500円が助成になりますので、この方が例えば2人で年6回利用すると25万、あとは鳥大の医学部のほうに入退院のためにタクシーを利用すると想定すれば1回当たり4万、5万円弱ですね、ということで新規事業ということで慎重に予算を計上させていただいたところでございます。

ただ、一方で、これまで自家用車で送迎されていた方が多くて、御自身の都合ですとか、タイミングで受診されることに、若干その利便性に慣れておられる方、多かったのかなと思っておりますが、また、再度、補装具の関係でこのリクライニング形式の車椅子を支給している実績のある方は、把握はしておりますので、そういった方々にこの事業を改めて周知させていただきまして、やはりこの事業、都合のつかない場合の交通手段の確保というところ、また、選択肢という面では非常に重要ではないかなと考えておりますので、適切な予算規模で、また、継続をしていきたいと考えておりまして、仮に利用が多くなってしまった場合には、また、ちょっと補正等をお願いをさせていただけたらと考えているところでございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員　そういう状態の方がやっぱり本当に出かける機会は確保しないといけないというふうに思いますし、自家用送迎できる方は本当に抱えたりなんかして、あるいはそういう備えていらっしゃる場所も改造して、そういうふうなことができる車を持っていらっしゃる方もあるのかもしれないですが、私、どうやって安心して出れるように、もちろん通院も含めてですけど、どうやって外に出る機会を確保するのかっていう立場で支援をするということを考えて、スキームとしてこういう中身ができていますけど、もっと自家用送迎についても支援をするとかいうようなことを考えるべき、プラスしてですね、べきじゃないのかなと思ったりするんです。県に意見を上げていただいて、県のスキームを、この支援の中身を拡充していくというようなことが必要じゃないかなと思います。

◆勝田鮮二分科会長　枘谷課長。

○枘谷承文障がい福祉課長　障がい福祉課枘谷です。そうですね、もともとのこの事業の開始が境港の医ケアの方が医療センターに短期入所する際にかなり困ったということがありまして開始をしたものでございます。その中の話としては、市内の医ケアの方、落ち着いた状態であれば在宅でも大丈夫なんだけども、ちょっと崩れたりされたときにちょっと心配だということで、こちらにつきましては、万が一ではないですけど、そういった場合の交通手段の選択肢としてまずはつくらせていただいたというところでございます。

今年度につきましては、7名の方に登録をいただいております、利用については1名の方ということで実績にはなっておりますが、そういった利用者の方や医ケアの方、保護者の方等々また、お話を伺いしまして、本市も自立支援協議会の医ケア部会ということもございまして、この支援が今どうなのか、不足するところはないのか、また、さらに拡充できるものはないのかという辺りはまた再度、来年度に向けても、いろいろ意見をお伺いしながら考えていきたいと考えております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長　よろしいですか。

◆岩永安子分科員　はい。

◆勝田鮮二分科会長　そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子分科員　はい。説明資料の10ページですけども、一番下の特別弔慰金給付事業が前年度2,000円、今年度289万8,000円と増額になってはいますが、この事業のこの増額理由とそれから事業内訳っていいですか、事業内容について教えてください。

◆勝田鮮二分科会長　西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長　生活福祉課西垣です。令和7年度なんですけども、第12回の特別弔慰金の受付が開始されます。この大幅な増額ですけども、受付専用の会計年度任用職員1名を雇用いたしますので、その人件費が主なものでございます。受付期間は令和7年度から3年間の予定で受付は行うこととなっております。以上でございます。

◆勝田鮮二分科会長　平野委員。

◆平野真理子分科員　はい。分かりました。この対象の方っていうのはもう決まっているっていうか、何かあるんでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長　西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。まず、対象の人数なんですけれども、今、1,200人程度見ております。先回、第11回は1,643件でございました。その前、第10回は2,166件、やはり御高齢の方も増えてまいりまして対象者のほうは減少しているという状況でございます。どういう方がこの弔慰金の対象になるのかということなんですけれども、少し内容としてはちょっと複雑ですので簡略して御説明させていただきますけれども、まず、基準日が令和7年4月1日現在で、恩給法などの公務扶助料とか、戦傷病者戦没者遺族等援護法、こういう法律の遺族年金を受給される方がいらっしゃる御遺族の方、この方に対して特別弔慰金を給付するというふうな内容となっております。以上でございます。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 分かりました。対象者の方もだんだん減ってこられたりとか、それから自分からこの申請してこられるっていうことですね。分かりました。3年間の事業ということで、それから次に11ページの社会福祉大会事業費なんですけれども、これも28万9,000円から来年度57万7,000円というふうに増額になっています。この増額理由とこの事業の内容についてお伺いします。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。この社会福祉大会事業費でございます。これは、例年鳥取市の社会福祉大会というものを開催する経費、社協との共催でやっているんですけども、その通常の経費に加えまして、県民総合福祉大会というのが3年に一度東中西の持ち回りがございまして、令和7年度は鳥取市が開催の番に当たっておりまして、いわゆる地元開催の、いわゆる負担金ということで10万円の予算を計上させていただいております。

すみません。ちょっと今、気がついたんですけど、この本年度予算額57万7,000円となっておりますが、大変申し訳ありません。ちょっと訂正を、正しくは41万3,000円でございます。プラスが10万2,000円ほどが前年よりプラスということで、大変申し訳ございません。その理由としては、県の大会が鳥取市で開催ということで10万円の負担金が計上されているということでございます。大変失礼いたしました。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。分かりました。間違いに気づいてよかったと思うんですけど、すみません。これはもう日にちっていうのは、日程は決まっているんでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 はい。つい先般、県とのそういった事前の打合せ会というのがございまして、たしか9月の11日だったと思います。ちょうど議会の開会中ということでありますけれども、一応その日ということで、今、進めようとしています。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 もう1点お願いします。11ページ、同じく法外援護事業費っていうのがありますが、これはどのような事業の概要か教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。まず、この法外の言葉ですけれども、生活保護

法以外という意味でございます。生活保護以外の支援策といたしまして、まず、夏に保護受給世帯の方に対して見舞金をお出ししております。あと、修学旅行に行かれる生徒さんに対して修学旅行支度金というふうな形でお渡しするお金となっております。見舞金につきましては、県のほうから経費をいただきまして、その分を市町村が代わりに受給者の方にお渡しするという内容となっております。以上でございます。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 最後ですけども、同じく 11 ページの出産資金貸付金っていうところですが、これは 1,000 円っていう、その他で 1,000 円っていうふうになってはいますが、この予算の目的について伺います。

◆勝田鮮二分科会長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。出産資金貸付金ですけども、これは、目的というのは出産される方の費用、出産費用の資金が足りないときに貸付けをするという目的のもので、実際には利用がありませんので、予算として 1,000 円というふうなことで上げさせていただいておりますが、実際には今、出産費用というのが実際かかった費用に対してありますので、補助がありますので、そういったことで実際に貸付金を利用されるということは、今、実績としてはありません。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 分かりました。今、岩永委員からつけとかないけんもんだっていうふうに、すみません。そうなのかと思って、結局これは中核市になったときにとか、そんなことは全然関係なし。もともとこれはつけとかないといけないもので、だけど、実際は利用する機会はあまりなくて、希望者もないけどもつけとくという、そういうものがあるんですね。分かりました。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子分科員 はい。事業別概要 113 ページ上段の日中一時支援事業費です。障がい者の方が日中過ごされる一時預かりの支援事業です。課長が前回説明のときに、一日単位で計算されていたものが、時間単位になりましたということ報告されました。予算は増額されていますが、どういうことが懸念されるのかなということと、増額の理由を教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 枅谷課長。

○枅谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枅谷です。岩永議員より日中一時支援事業についての御質問いただきました。こちらにつきましては、いわゆる地域生活支援事業ということで各市町村が独自で行う事業になりまして、障がい福祉サービス、国のほうが定めているものとはまた違っていますが、似通ったものもあるということでございます。このたび国の障がい福祉サービスのほうの似通った部分としまして、放課後デイサービスがあります。これも一時的に預かってという話になりますけども、こちらの今回、報酬改定によりましてそれまで 3 時間以上か 3 時間未満かの 2 区分しかなかったということがございます。なので、一日どれだけ見られても、この 2 区分の間での報酬を事業者は支払われていたということになりますけども、今回の報酬改定によりまして、30 分～1 時間半と 1 時間半～3 時間、それと 3 時間～5 時間までと

いう3区分に分けられました。

それで延長が2時間まで報酬が出ますので、合計しますと7時間ということになります。それまでは営業時間8時間に延長の2時間を加えて、10時間までは放課後デイサービス等々で報酬の中で賄われていたものが、今後は5時間プラス2時間ということで7時間、例えば9時～16時までで7時間が終わってしまうということになります。それで懸念としましては夏休み、御両親が仕事に出られて一日どなたかにちょっと見てもらわないといけないというときに、7時間以上になる可能性があるということでございます。国のほうでは一日2つの障がい福祉サービスを使えないんですけど、この障がい福祉サービスと地域生活事業なら使えるということがございますので、放課後デイサービスを使われた後に、この日中一時を使われるということが考えられるということでございます。

本年度の報酬改定なんですけども、日中一時、今年度300万ほど実は増えているということがございまして、来年度はもっと多くの事業者、また、多くの方がそういった形態で日中一時支援事業使われるのかなというところがございまして、2,035万4,000円のちょっと増額予算とさせていただいたというところでございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 はい。今までと違って、こうやって時間単位でっていうことになると、利用される側は細かい実際利用した時間で送迎してもらったら、送迎加算がついてっていうような形で1割負担ということになるんですかね。ちょっとすみません。教えてください。

◆勝田鮮二分科会長 枡谷課長。

○枡谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枡谷です。委員さん御指摘のとおり、2つの事業別々になりますので、これまでは放課後デイサービスのほうで1割負担、1割部分だけ負担をされていた方々にとっては、日中一時も新たに加わるということになりますので、その分のまた1割が追加されると、利用者の方にとってはそういうことになります。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 はい。何か介護保険にスタイルが似てくる感じがします。障がい福祉の分野の介護保険化っていうようなことになっていくんじゃないかっていう心配をします。やっぱり障がい者の方ですので、予約をしておられるけど体調悪くなって急にお休みされたりとか、そういうことが実際、高齢者の場合でもあるわけで、この放課後デイサービスとか、日中一時支援事業をやってもらう事業所にとってみると、やっぱり介護保険のようになって大変になるんじゃないかっていうような危惧をしておられるところが、そういう声が出ています。ぜひ、しっかり年度初め、これからの事業、変更点ですので、しっかり見ていただきたいと思ひますし、これで事業所がやっぱり大変になるというようなことのないように見ていただきたいというふうに思ひます。

◆勝田鮮二分科会長 意見でよろしいですか。

◆岩永安子分科員 はい。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副分科会長 開政加嶋です。先ほどの平野委員の質問に関連してお聞かせ願ひたいん

ですけれども、その項目の整理としてなくすことであつたり、この出産資金貸付金の利用がなければ、その事業を変更してほかの支援に充てるだとか、そういったことは話し合われてないのかお尋ねします。

◆勝田鮮二分科会長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。出産貸付金の件ですけれども、実際、現在は利用がありませんが、本当に利用がないとか、なくしてしまってもよいものなのかっていうようなところをしっかりと確認した上で、今後整理させていただきたいと思います。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 はい。加嶋です。そうしましたら事業別概要書 110 ページ下の段です。身体・知的・精神障害者相談員設置事業費についてお尋ねします。事業実績が書かれてるんですけれども、実際に相談件数が分かったら令和4年、5年、6年見込みで構いませんので教えていただきたいのと、法律とか条文については障害者の漢字表記で、事業名については障がい者のがいのところ平仮名の表記にというところだったんですけど、ここの事業と 116 ページも出てきます重度障害者医療助成費とか、一部漢字であつたり平仮名であつたりというこの統一の基準というのはどのようになっているのか、その2点お尋ねします。

◆勝田鮮二分科会長 栢谷課長。

○栢谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課栢谷です。加嶋議員より各相談員の相談件数とあと、障がいの使い分け、そちらについて御質問いただきました。身体、知的、精神、それぞれ別でちょっと御説明いたしますと、令和5年度確定した実績になります。身体のほうでは令和5年が140件、令和4年が242件、令和3年が233件です。知的障がい者の相談員のほうでは令和5年が35件、令和4年が46件、令和3年が45件。あとは精神障がい者の相談員のほうでは、これは令和3年からの実績になりますけれども、令和5年が45件、令和4年が50件、令和3年が35件ということでございます。

害の字の使い方になります。身体障がい者の相談員と知的障がい者の相談員につきましては、それぞれ身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の中で設置できるということが定められておりまして、法律の用語としては害の字が漢字であるということで、そのままの漢字で使っているということでございます。本市の使い方の基準ですけれども、法律用語で法律の中で害の字が使って、漢字が使ってあつたり、あと、固有名詞として害の字が使ってあつたり、例えば施設とかそういったものに害の字が漢字で使っているものについてはそのまま漢字で使わせていただきますけれども、それ以外のものについてはなるべく平仮名、がいの字を使うということで整理をしているところでございまして、知的、精神につきましてはちょっと法律用語の中での相談員ということでございまして、漢字を使わせていただいております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 はい。加嶋です。質問重ねます。何でこうなったかといえば、事業の経過及び背景の一番最後の分に精神障がい者相談員のところは平仮名になっていて、事業名と一致してないのでどうかなというところだったので、それどうしても一致させろとかではなくて

聞いただけの話ですので、それについてはもう以上です。事業実績、今、お聞きしまして、その件数に対して相談員さんが忙しすぎるであったりだとか、対応がし切れなかったりっていうようなことがあるのか、件数で言えば知的相談員さんの7人に対しての45件と、精神障がい者相談員さんの2人に対しての35件ってなってくると、その相談内容にもよるとは思うんですけども、実際に相談員さんたちの負担感というか、もっと増やしていくべきだとか、足り苦しいところはないのか、その辺現場から何かお聞きしてないでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 枘谷課長。

○枘谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枘谷です。相談員さんの繁忙の度合いというかそういったお声はどうかというような御質問だったと思います。相談につきましては、それぞれ毎月どういった相談があったのかということで御報告をいただいているところでございまして、一番多い相談はその障がい福祉サービスの利用に関する相談や、また、年金やどんな手当がもらえるのかという相談、あとは一般的な生活相談が多いということを聞いております。それで、障がい福祉サービスに関することですか、年金、手当に関することでしたら障がい福祉課のほうにつないでいただくようなことをお願いしております、詳しくはどこの相談窓口かということでそれぞれでバトンタッチをしていただく、各相談員の方で全て解決していただくようなことは考えておりません。そこは連携して相談対応表を見ながら、こちらからもちょっとアクションを起こしたりとか、そういった形で負担を軽減させていただいているところでございます。

相談員につきましては、いろいろ各当事者団体の方や家族の団体からの推薦という形でいただいているところでございますけども、なかなか高齢化や会員減少もありまして、相談員の成り手がなかなか少なくなっているという現状もございまして。この各相談員につきましてピアサポートという面から事業等考えているところでございますけども、ほかにも一般相談、各相談支援専門員さんがおられるような事業所等々もそういった体制も充実しているところでございますので、今、協力いただける範囲で活動いただければなと考えているところでございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 開政加嶋です。そうしましたらお答えいただきましたことに対して意見を述べて終わります。健常者に対する受付の窓口であったり、検索が可能で直接その相談課に相談できる人の割合と、障がい者であってなかなかどの人に相談したらいいのか分からないとか、絶対数に対して相談員の数というものが本当に適正なものなのか今一度検証していただいて、いろいろところでいろいろなサポートをする役が地域でも省庁でも成り手不足になりがちになっているところを、改めて費用対効果等検証して必要であれば予算を、相談員さんの手当を増額してでも必ずこの人数を確保していくんだというようなところの指数を持って事業に当たるようにしていただきたいと思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子分科員 生活保護のことで伺います。115ページの、まず、生活困窮者自立支援事業費なんですが、就労支援相談員、それから委託をしてる学習支援事業やそれから被保護者就労準

備支援事業、これらの人や事業を担ってもらってる人たちは、研修だとか、そういう制度があるのかなのか、あるいは委託をしてるところでそういうことがやられてるかどうかというのをつかんでおられるんでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 はい。まず、就労支援相談員であります。これは生活福祉課内に1名会計年度任用職員を配置しております。この方の前歴ですけれども、ハローワーク等々で職業相談に当たっておられた方ということで実績のある方を雇用しているところでございます。あと、学習支援事業、就労準備支援事業、これ、民間委託を行っておりますけれども、事業所の中で例えば講師となる先生への研修とか、就労支援を行う方への研修とか、このようなことにつきましては事業所のほうで研修のほうを行っておると伺っております。以上でございます。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 ハローワーク等で職業支援をしていらっしゃる方だから、職業支援についてはプロなのかもしれないです。ただ、人権の問題だとか、それからその生活保護を受けていらっしゃる方に対する見方や、それから社会保障の捉え方などはやっぱり研修していただかないと、そこは足りない部分なんじゃないかなって思ったりします。ぜひ、検討していただきたいと思いますがどうでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。この就労支援相談員の方ですけれども、全国研修というのも実はございまして、今年度、令和6年度東京のほうに研修に行っていたりとか、あと、日々の業務につきましては、私も含めて職員のほうからこういったふうな接し方とか、相談の仕方とかを心がけてくださいというふうなことは常に話をしているところでございます。以上でございます。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 全国研修、これ国費で就労支援相談員、置かなければならないってなっていますから、どういう中身で研修されるのか、国が責任持ってされることなんだなと思いますけど、やはりなかなか仕事を続けられない、同じことを繰り返すようなことがある。だから、なかなか生活保護から自立できない方だと思いますので、ぜひ、研修は考えていただきたいと思います。それから学習支援や就労支援事業についてもそれぞれの事業所の中でっていう、任せっきりでせずに、どういうことをやっておられるのかっていうなんはぜひつかんでいただきたいと思いますし、生活大変だっていう中での困難な状況が子供やそれから被保護者に出て、いろんなことが表れていると思います。ぜひそこは関わる人たち、市の職員も含めてだと思えますけど、しっかり定期的な学びをお願いしたいというふうに思います。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子分科員 今の岩永委員の生活困窮者自立支援事業費のことでまた、内容は先ほど御説明あったとおりだと思うんですけども、(3)の被保護者就労準備支援事業っていうのがありますが、83名のこの支援予定者数っていうのは、もうこの方っていうのが決まっているわけでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。現在継続して支援をさせていただいている方は6年度も、令和7年度も希望されたら継続して支援のほうはさせていただこうと思っておりますけれども、この83名といたしますのは、今の令和6年度の実績を基にしまして、これを、定数を100名としておりますので、これを中央人権福祉センターのパーソナルサポートセンターのほうと、中央人権センターのほうと生活福祉課で案分した場合に生活福祉課が83名分、残りの17名分が中央人権福祉センター、トータルで、100人ぐらいで事業をやっていこうというふうなことで、この83としていただいております。以上でございます。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 加嶋です。事業別概要書114ページの上段です。すみません。2月の10日に蔵増部長直々に御説明をいただいたんですけども、この減額が1億7,000万弱ですかね、その要求額に対してこの査定額が大きく変動した理由が、一般財源分が単純に減ったのか、もしくは国県支出金等が減ったとか、そもそも算定が変わったとか、その辺の背景をもう少し分かりやすく教えていただけたらと思います。

◆勝田鮮二分科会長 枅谷課長。

○枅谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枅谷です。国民健康保険団体連合会の負担金等の減額というのは、恐らく要求額と査定額の減額ということかなということちょっとお答えはさせていただきます。こちらにつきましては2月補正でもかなりの増額をお願いした事業でございまして、令和5年度の実績と令和6年度の実績見込みでは大体7.1%全体的に伸びているというところでございます。来年度の実績見込みにつきましても、大体3%か4%伸びるのではないかという見込みでは、担当課としては、はじいておったところでございますけれども、まずは令和6年度実績ベースで要求をさせていただいて、これはまた、来年2月の辺りにもう少し確定をする時期がございますので、その際にもし足り苦しい部分があればまた、要求をさせていただいて、多い部分があればまた、減額させていただくというような形で事業を回していきたいなと考えているところでございます。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副科会長 はい。この件については最後の質問にします。事業別概要書にそれであればその修正された数字にそろえることもできるんじゃないかなと思うんですけど、要求額と総務部長査定段階の減額されたような数字をされているのは、狙いがあったのか、そういうのってどうなんですか。

◆勝田鮮二分科会長 蔵増部長。

○蔵増祐子福祉部長 福祉部蔵増です。なかなか難しい質問ではありますけれども、要求と査定段階とを明確にしていくという形で、こういうふうに公表をしているという形であろうかと思っております。おっしゃるとおりに、この大幅な減額だとか、増額だとかが査定段階であると御心配いただくようなことになろうかと思っておりますけれども、これは予算編成の中での過程を公表していくという趣旨もあってこういう形になっているものであると考えております。御理解いただければと思います。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子分科員 105 ページ上段の持続可能な権利擁護支援モデル事業費、これ総括質疑でも答弁いただいておりますけど、改めてお聞きいたします。新規事業ということで、誰もが安心して歳を重ねることができる幸齢社会っていう、この字が使われていまして、づくりの実現に向けた取組だと、この身寄りのない高齢者等の生活上の課題への対応を含めた新たな権利擁護支援策構築が求められているという中での事業ということで、ここに書かれています目的及び効果のところなんですけども、①の身寄りのない高齢者等の生活上の課題に関する包括的な相談・調整窓口の整備ってありますが、これはこちらが整備されることだと思うんですけども、具体的にはどのような相談・調整窓口の整備をされるのかお伺いいたします。

◆勝田鮮二分科会長 松本課長。

○松本 縁長寿社会課長 長寿社会課松本です。この新しいモデル事業につきましては、令和7年度実態調査をするということで予算を要求させていただいているところです。この調査の中におきまして、支援される側となります身寄りのない高齢者の方ですとか、あと、逆に、支援をする側の民間事業者さんですとか、弁護士さんですとか、そういった支援をする側の方への調査も行おうと考えております。そういった調査の中で具体的にこういうサービスを提供できる方がどのようにその支援を必要とされている方にサービスを提供できるのかとか、あと、その支援を必要とされる方がどういうふうになればそういった窓口に来ていただけるのかといったような仕組みのところも考えていきたいなというふうに考えておまして、今、具体的にこういうふうにしようかというような、ちょっと具体的な案は持ち合わせておりませんが、イメージとしましては、やはりこれだけの単独の窓口では、やはり支援はできないだろうなというふうには想定しておまして、いろんな現在でもあります市のいろんな相談窓口等と連携した形での窓口だったり、調整窓口だったり、相談窓口だったりというふうなところを構築していきたいなというふうには考えております。新しくつくるのではなく、既存の制度の見直し等含めてつくっていききたいなというふうに考えております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 分かりました。新しくそういうふうに、どういうふうにされるかは今後の検討になられると思うんですけども、この身寄りのない高齢者っていうことになりますとなかなか本人も相談に行くっていう声が届きにくいと思いますし、なかなかこの行政の窓口から見たときに、なかなかそこに目が届くものではないのかなと思います。そのために実態調査を何とかされるっていう話だと思うんですけど、あれですか、例えば地区公民館とか、何か地域でのそういった実態が分かるような人に声をかけるとか、調査も考えられるってことあるでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 松本課長。

○松本 縁長寿社会課長 長寿社会課松本です。現在予定をしております調査対象の方としましては、やはり地域の皆さんっていいですか、身近に生活しておられる方の支援っていうのは必ず必要になってきますので、そういった方としましては、さっきのように民生委員さんですとか、あと、地区の社会福祉協議会さんですとか、あと、そういった方等と、社会福祉協議会さ

んですとか、地域の活動しておられる方に対して調査をしていきたいと考えております。この方たちについては郵送によるアンケートというよりも直接会ってお話を聞かせていただくヒアリング調査をしたいというふうには考えているところです。地区公民館の館長さんっていうのも、地区公民館の職員さんっていうのもやはり地域に身近な方ということになりますので、そういう方も対象にできたらしていきたいなと考えております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 いいお考えだと思います。やはりいかに地域に広げて、地域から声を聞くかっていうこと大事だと思いますので、ぜひその辺り検討していただきたいというふうに思います。地域に入り込んでいらっしゃるところに保健師さんが結構高齢者のいろんなサロンとか、入られているなという感じがしますので、その辺りも大事かなと思います。もう1つ、②の主に十分な資力がないなど、民間による支援を受けられない方を対象に、総合的な支援の提供体制を構築する上での課題の検証等を行うことで、要するに問題があるんだろうなと思うけれども、それに向かってどうしていくかっていうのが新年度の取組になるかなというふうに見るんですけども、その辺のところ整理しながら進めていただかないといけない話なのかなと思うんですが。でも、この事業主体は総括質疑のときに主体は市だっているというふうにおっしゃっていたので、やはりそこが市から見たときの取組になると思いますので、しっかり新しい事業で、また、見えないけれども、実際そういった制度のはざまにいらっしゃる身寄りのない高齢者の方っていうのが今後、増えていくことかなと思いますし、大事な視点だと思いますので、この事業にしっかり取り組んでいただきたいなというふうに思います。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。関連して、岩永委員。

◆岩永安子分科員 令和7年度は、さっき平野委員さん聞かれたように、その地域の方に直接会って調査をしていく費用、実態調査が489万円だと言われた、500万のうちのね。ほんで、併せてコーディネーターを配置するって言われたと思うんです。コーディネーターは何をするんでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 松本課長。

○松本 縁長寿社会課長 長寿社会課松本です。コーディネーターの配置につきましては、国の示すモデル事業のものがあまして、質疑のほうで部長のほうがお答えさせていただいた内容になるんですけども、国のモデル事業の例示としまして示されている相談受付の窓口ですとか、調整の窓口としまして、それを専属で行われるコーディネーターを配置して、その身寄りのない高齢者さんとその支援等をつなぐ役割をするというような構成が示されておりまして、そういったところを踏まえた上で、今回の令和7年度の調査におきまして、そういったコーディネーターを置いて相談を受けたり、調整をしたりということをどういうふうにしていけばいいのかということも調査していきたいというふうに考えているところです。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 分りました。だから、令和7年度はコーディネーターは配置しないわけですよ。それでね、支援する民間事業者というような言葉も出てきました。本当に身寄りのない人が亡くなられたりとか、あるいは施設に入らないといけなくなったりした場合に、どうい

ことが必要になるのかというようなことを考えていくのかなというふうに想像してるんですけど、行政は何をするのかなって思います。ぜひ、いろんな調査をしていただく中で、本当に行政として何ができるのかということもしっかり考えていただかないと、どっかの事業所に任せたらいいというような結果を出すのではなくってね、本当になかなか分りにくいことをつかんでいく中身、そういう自分から、私、身寄りありませんなんて言いませんから、本当にそういうのをつかんで、せっかくつかんで必要なことを考えていただくので、行政としては何ができるのかっていうことを、ぜひ併せて考えていただきたいなと思います。

◆勝田鮮二分科会長 意見でよろしいですか。

◆岩永安子分科員 はい。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか、関連で、岡田実委員。

◆岡田 実分科員 岡田です。今の今後のサービスに当たってなんですけど、ちょっとこのことを御存じかなと思うんですけども、松江市の社会福祉協議会のほうが、高齢者安心サポート事業っていうものをされてるって、これはもう御存じですか。分かりました。大体皆さん知っておられたらと思ったんですが、ちょっとこの場で紹介といいますか、改めてなんですけども、これは地域全体で、その権利擁護の必要な人を見守っていく仕組みということで、まず、預託金ということで63万円、基本金なんですけど、松江の社会福祉協議会のほうにお預けしておきます。それで、一人身の方で自分で判断ができなくなってしまって、そういう方が例えば急に入院されたりとか、あるいは急にお亡くなりになった後に発生する費用の支払いのために、その63万円を活用していくというふうな内容です。

例えば、具体的にはなんですけども、そのほかなんですけども、分らなくなって施設に入所したときのその利用料であったりとか、あるいは市営住宅とか、アパートとか借りていて、そこを退去するときの退去するための現状回復費用であったりとか、そういったものにその63万円を充てていくというふうなやり方をもう既に隣のといいますか、松江市のほうではやっておりますので、それとかなり将来といいますか、今回の調査のその先に見えてくる一つの方向じゃないかなと思うので、ぜひその辺りも十分視野に入れて検討されながら、鳥取市として何ができるのか、そういう委託するところが本当で社会福祉協議会でいいのかどうか、その辺も含めてなんですけども、研究していただけたらなと思います。これは意見でございます。情報提供と意見でございます。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。それでは以上で質疑を終結します。

議案第14号令和7年度鳥取市国民健康保険費特別会計予算について（質疑）

◆勝田鮮二分科会長 続きまして議案第14号令和7年度鳥取市国民健康保険費特別会計予算に入ります。質疑の前に執行部から追加の説明があるようですのでお願いします。池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。それでは議案第14号令和7年度鳥取市国民健康保険費特別会計予算の事業勘定について追加の説明をさせていただきたいと思います。資料のほうは本日お配りしておりますA4、1枚ものの国民健康保険に係る納付金算定方法の変更についてという資料を御覧ください。では、資料に沿って説明をさせていただきます。

まず1番目、経過現状というところですが、少子高齢化や人口減少が進んでいる中で、国民健康保険制度の安定的な運営を図るため、県単位で支え合う仕組みづくりは先送りできない課題となっております。令和3年度以降、県と市町村で保険料水準の統一について検討を行ってきております。令和7年1月9日に開催をされました県・市町村行政懇談会において、県から提案をされた納付金算定方法の変更について、医療費の負担を県全体で支え合う仕組みにするため、令和7年度から5年間で段階的に移行するというものについて、19市町村長が合意をされたところです。

2番目ですが、この納付金算定方法の変更に係る背景と意義というところでして、まず、1つ目は、国民健康保険というのは加入者の年齢構成が高く、医療費水準が高いというほか、所得水準が低く小規模な保険者が多いというような構造的な課題があります。2つ目に人口減少や社会保険の適用拡大などによって、今後も被保険者数は減少していく見込みであり、特に小規模な保険者においては高額な医療費が発生するというものなどによって、納付金への影響がますます大きくなっていくということが考えられています。

この2つの以上のような状況を踏まえまして納付金の算定方法を変更し、納付金算定の際に医療費を県全体で考慮することによって、本市の医療費が急激に増加した場合でも、県全体で平均化をされて納付金の急激な変動を抑制することができるかと考えられています。

3番目に納付金の算定方法の具体的な変更内容ですが、納付金は、県全体の保険給付費を推計した額、これは鳥取県のほうでされるんですが、その推計した額に、市町村ごとで異なる医療費水準や所得水準、被保険者数などを反映をしまして算定をして、その後、各市町村への配分額が決定をされます。令和7年度の納付金算定からこの医療費指数反映係数 α と書いておりますが、これは納付金の算定に当たって、各市町村の医療費の水準の違いをどの程度納付金の配分に反映させるかということを設定するための係数なんですが、この係数を今現在、全て反映させる場合には1、今が1の状態なんですが、これを令和7年度から0.2ずつ段階的に引き下げていって、令和11年度には市町村ごとの医療費水準の違いを反映しない、全く反映させない α をゼロとするというような変更内容であります。

4番目に、この本市の医療費水準の状況なんですが、これについては先日3月7日の予算総括質疑で部長のほうもお答えさせていただきましたが、医療費水準というのが都道府県とか、市町村の地域差を比較するために全国平均を1として指数で表されておまして、令和7年度の納付金の算定に使用された数値は、鳥取県の平均値1.02に対しまして鳥取市は1.0027となっております。県内における本市の医療費水準は平均よりも低い状況にあります。

5番目に、納付金算定方法の変更、このたび変更することによる影響というところで納付金算定方法を変更しますと、医療費水準が高い市町村は納付金が減少し、医療費水準が低い市町村は納付金が増加することになりますが、これは保険料に影響しないよう、県のほうで特別交付金によって負担軽減措置を図るといふようにされております。このたびのその納付金の算定方法の変更の内容は以上ですが、事業別概要で前回2月26日に御説明をさせていただきましたが、事業別概要の316ページ～317ページを御覧ください。

この316ページ下段の一般被保険者医療給付費分、納付金はこれと317ページのこの3つを

合わせた合計で納付金額が決まっております、3つを合わせますと39億8,480万1,000円となっております、これが前年度と比較すると2億507万1,000円増えているということを前回2月26日に御説明をさせていただきました。このうち、316ページ下段の医療給付費分、ここが今、御説明させていただいた医療費水準が反映される納付金、関わってくる納付金となりまして、ここの納付金の中で前年度の当初予算額と今年度とを比較しますと、2億5,511万7,000円の増額になっておりますが、今回、算定方法の変更による影響額としては、先般の予算総括質疑でも部長のほうがお答えさせていただきましたが約903万円、これは県が見込まれた7年度の納付金を前年度と比べて増額になっているんですが、算定方法を変更したことによって1、今現在のその全て医療費水準を反映するという1の状態と0.8になったものとの比較をしたときに約903万円増えるというようなことで聞いております。説明のほうは以上です。

◆**勝田鮮二分科会長** それでは質疑に入ります。質疑、意見のある方は順次発言をお願いします。岩永委員。

◆**岩永安子分科員** 今回、算定方法を変えて医療費水準0.8で計算された額がこういう316ページ下段の額だということ。それで、これは1月9日に開催された県・市町村行政懇談会で確認されたということで、全ての市町村に対して県はそういう納付金を請求、0.8で計算して納付金を請求しているというふうに思ったらいいですか。

◆**勝田鮮二分科会長** 池上次長。

○**池上朱美次長兼保険年金課長** 保険年金課池上です。議員がおっしゃるとおり、全ての市町村に対して0.8で計算をしておられます。以上です。

◆**勝田鮮二分科会長** 岩永委員。

◆**岩永安子分科員** これまで、平成30年にこういう国民健康保険の払い方というか、県がまとめて納付金を請求するって、1つの財布で県が全県の医療費賄うために各市町に請求をする。その請求された納付金に基づいて保険料を決めていくという方式に変わったけども、でも、しばらくはこうやって下げていくというようなことはされなかったわけですね。だけど、今回こういう合意をされたのはどういう訳なんでしょうか。

◆**勝田鮮二分科会長** 池上次長。

○**池上朱美次長兼保険年金課長** 保険年金課池上です。平成30年に都道府県化されてまして、県全体の医療給付費を県が1つに財布をっておっしゃったんですが、そういった制度が変わって以降、先ほど言いました令和3年度以降は、県と市町村で保険料水準の統一について検討を行っていきましようというような合意がなされて、令和3年以降ずっと検討してきておまして、このたび1月9日の県と市町村の行政懇談会において、県の提案されたこの納付金の算定方法の変更について、市町村長からの意見として被保険者がずっと減ってきております。先ほども言いました、これは先送りできない問題であると、国民健康保険を安定的に今後も持続可能な制度として運営をしていかなければならないという中で、この保険料の統一にも向かっていくべきではないかというような御意見もあったり、また、今回の県の提案には全面的に協力しますよというような御意見もあつたようです。

また、これについては市町村ごとに異なるいろいろな事務もありますので、そういったこと

も調整をしていかないとなかなか進んでいかないのではないかなという御意見、様々な御意見はあったようですが、19市町村長さんは、やはり国民健康保険制度、鳥取県においてこれからも県民の皆さんが必要な医療にかかれるようにしていくためには、このたびの算定方法の変更も必要ではないかという判断をされて合意をされたのではないかなと思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 鳥取市さんは、保険料統一したほうがいいんじゃないかなというようなことも以前にも言ってもらったことがあるんですけど、でもやっぱり様々な意見があった中、統一されることを合意されたというのは、やっぱり国がこういう運営方針、鳥取県の国民健康保険運営方針というんですかね、そこにやっぱり統一するということを具体的に書かないと国との関係でまずいということがあったんだというふうに思います。

だけど、一番下のところにね、医療費水準が高い市町村は納付金が減少し、医療費水準が低い市町村は納付金が増加することとなるということが書いてあって、特別交付金で負担軽減措置を図るということも書いてあるけれども、すぐ思い浮かべるのが大阪なんですよ。大阪は随分早い段階から保険料統一して非常にその保険料が上がったという声があって、やっぱり統一するということは、具体的に市町で健康づくりとか、健診受診だとか、そういうことによって保険料を下げるんだと、健康状態つくっていくんだということが具体的に保険料に反映して、つまり医療費に反映していくというか、いうことが、

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。もう少しまとめてもらえますか。

◆岩永安子分科員 はい。見えにくくなってしまうということが私はとっても懸念されます。それと保険料が上がっていくということを懸念します。

◆勝田鮮二分科会長 意見でいいですか。

◆岩永安子分科員 はい。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副分科会長 加嶋です。そしたら担当課にお聞きますけども、岩永委員の発言の中に国との関係がまずくなるというのがあったんですけども、この国が一定の指針を示したとかでなくても、県内の19市町村で話し合った結果、今回のものだというふうに私は理解しているんですけども、厚生労働省等、何か指導が入ったんでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。国から、厚労省から特に指導が入ったかということは私のほうは把握しておりませんが、もともと、現状、最初に御説明させていただいたとおり、国民健康保険、鳥取県においても被保険者数がどんどん減ってきております。鳥取市はその中でも被保険者数の3分の1を占める一番大きな自治体であります。ほかの町村においては小規模な保険者がおられまして、やはり小規模なところで、例えば高額な医療費が鳥取市でもこれはありますが、1つのレセプトで何千万というような大きな医療費が発生するということがあります。

それで、現状でも小さな町村において、そういった大きなレセプトが出てきて、それが非常

にやはり納付金にも、もちろん反映されますし、それはイコール保険料にも反映しなければならぬという状況が出てきますので、そういったところを、どこの町村がということではなくて、鳥取県全体でそういったことを支え合おうねというような気持ちを持っておられて、19市町村長が合意をされたのではないかと思っております。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 岩永委員。

◆岩永安子分科員 次期の県の運営方針にはやっぱり保険料統一するということを明記するように国は求めているんでないでしょうか。

◆勝田鮮二分科会長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。鳥取県の運営方針におきましては、県のほうで、今まさに今年度中に次の第3期の運営方針を策定するよう準備を進められておられまして、まだ確定をしたものは私たちのところには届いておりませんが、それについて国のほうが鳥取県だけではなくて全国としてそういった、こういうふう国民健康保険制度というのは今後していくというような国のほうの方針を出しておられることは承知しておりますけれども、鳥取県の運営方針について、それをどういうふう判断されているかは県のほうで、今、議論されているというか、検討されているものだと思います。以上です。

◆勝田鮮二分科会長 よろしいですか。

◆岩永安子分科員 はい。

◆勝田鮮二分科会長 そのほかございますか。では、以上で質疑を終結します。

議案第17号令和7年度鳥取市介護保険費特別会計予算について（質疑）

◆勝田鮮二分科会長 続きまして議案第17号令和7年度鳥取市介護保険費特別会計予算の質疑を行います。質疑、意見のある方は順次発言をお願いします。ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二分科会長 質疑なしと認め質疑を終結します。

議案第21号令和7年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計予算について（質疑）

◆勝田鮮二分科会長 続きまして議案第21号令和7年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計予算の質疑を行います。質疑、意見のある方は順次発言をお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二分科会長 質疑なしと認め質疑を終結します。それでは福祉部の皆様はここで退席ください。御苦労さまでした。

それではちょっとここで10分間休憩します。

午後3時3分 休憩

午後3時15分 再開

◆勝田鮮二分科会長 それでは再開いたします。

分科会長報告の取りまとめについて

- ◆**勝田鮮二分科会長** それでは分科会長報告に盛り込むべき事項、例えば事業の確認を行います。意見等ありましたら順次発言をお願いします。加嶋副委員長。
- ◆**加嶋辰史副分科会長** 加嶋です。出た意見の確認をさせていただきます。西尾委員の発言で老人福祉施設の運営補助金のことについて、意見で適正な金額を求められたいという意見がありましたし、ちょっと詳細、私もメモし切れていないんですけど、岩永委員から生活困窮者自立支援事業について、障がい福祉の介護保険化を懸念しており、手厚いというか、今後も引き続き体制を考えてほしいというような意見があったかと思います。新規事業の持続可能な権利擁護支援モデル事業費について平野委員から質疑と意見がありまして、地域におられる方を巻き込むのかということと、そうだという返事だったら地域に入り込んでほしいということであったり、保健師の方が地域のことを、実状を把握しているケースがあるので、そこを勘案してほしいというような意見が出ていたと思います。それで、一番最初の質疑と意見が集中したのが、岡田委員の民生委員事業費についてのもので、地域で役割が重複していることがあるし、事業が明確化できていないので、それを求めるような御意見だったと思います。以上振り返りです。
- ◆**勝田鮮二分科会長** はい、意見を。
- ◆**西尾彰仁分科員** いいですか。
- ◆**勝田鮮二分科会長** はい。じゃあ、西尾委員。
- ◆**西尾彰仁分科員** はい。総括質疑でもね、総括質疑というか、あれでも民生児童委員のは出ましたですよ、確かに、本当に成り手がおらなくて困るとというような状況もあって、この辺り岡田委員のやつを今後の民生児童委員の在り方とか、役割とか、もっと簡潔だとかね、本当に厚生労働大臣から任命書をされるあれでね、私は渡したりしようと思ったんですけど、河原で29人、佐治で17人ぐらいおったんですけども、やっぱり成り手不足、それから認識でもっともそんな重たいもんはできんということもあったんで、この岡田実委員さん言われたことをちょっと意見として出したらどうかなと思いますけれども。ちょっとまとめ方がちょっと分かんんですけども。以上。
- ◆**勝田鮮二分科会長** 岩永委員。
- ◆**岩永安子分科員** 民生委員さんのことは岡田委員が何回も聞かれたんですけど、岡田委員さんしか言っておられなくて、それで、一番最後のモデル事業、モデル事業は平野委員さんが地域の支援活動をしてる人やなんかはっきり入り込んで情報を得ることが大事だということや、それから岡田委員が、今年の実態調査だけど、その先の事業として松江がこんなことやってる、それから私も行政として何ができるか、岡田委員もやっぱり市として何ができるのかっていうことを考えながら、今年の実態調査をやってほしいということを言われたので、そこから辺が新規事業ですし、まとめたらいいんじゃないのかなと思ったりしますが、いかがでしょうか。
- ◆**勝田鮮二分科会長** 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。私は民生のもあれですけど、さっき言われたように多数の方が新規事業でって岩永委員長さんも言われたので、私もあんまりようけ出すのもどうかと思うので、それで1本でいいと思います。賛成します。以上。

◆勝田鮮二分科会長 皆さんはどうでしょうか。岡田信俊委員。

◆岡田信俊分科員 西尾委員の意見に賛成です。

◆勝田鮮二分科会長 はい。それでは事業名としては総括質疑の3名されている項目でして、新規事業ということでもありますので、持続可能な権利擁護支援モデル事業費、105 ページの上段、ここ1本でさせていただいてよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二分科会長 それからあとは内容については、正副委員長に一任ということによろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二分科会長 また、皆さんにはお知らせします。はい、ありがとうございます。それではあと、次に入ります前にですね、その他に。ちょっと市立病院の先ほどの件で、もう一度ちょっと再確認させていただきたいということで、ちょっと事務局のほうからありましたら。

○福田佳菜議事係主事 失礼します。事務局福田です。発言要旨のほうA I 議事録で起こしまして確認をさせていただきましたところ、医師確保についてのところまで議論が及んでいないような感じがいたしまして、研修医が来年度8人ということが出てきまして、その研修医の養成というところ、研修ですとか、そういったところは出てきているんですけども、それを医師確保につなげるとか、そういったところまで出てこなかったような感じがいたしまして、その辺りいかがいたしましょうか。

◆西尾彰仁分科員 でも、いいじゃないですか。だけ、研修医の言ってないことまでは言えんわけだけ、研修医の確保に努めて、確保までは言えないんで、そこでとめるしかないですね、研修医でも医師だけ。

◆勝田鮮二委員長 ちょっと休憩します。

午後3時22分 休憩

午後3時31分 再開

◆勝田鮮二委員長 では、再開いたします。それでは予算審査特別委員会福祉保健分科会を一旦終了します。

福祉保健委員会へ切替え 午後3時31分 閉会

令和7年2月定例会

福祉保健委員会・予算審査特別委員会福祉保健分科会

日時：令和7年3月12日（水）

10:00～

場所：本庁舎7階第1委員会室

市立病院

《福祉保健委員会》

1 議案（先議分以外）【質疑・討論・採決】

- ・ 議案第59号 鳥取市公営企業職員の給与の種類及び基準に関する条例等の一部改正について
- ・ 議案第61号 鳥取市立病院医師奨学金貸与条例の一部改正について

《予算審査特別委員会福祉保健分科会》

【予算審査分：質疑】

- ・ 議案第27号 令和7年度鳥取市病院事業会計予算

◎ 分科会長報告の取りまとめ

----- 《福祉保健委員会》 -----

1 議案（先議分以外）【質疑・討論・採決】

- ・ 議案第 48 号 鳥取市特別会計条例の一部改正について

- ・ 議案第 54 号 鳥取市無料低額宿泊所の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

- ・ 議案第 62 号 鳥取市高齢者及び障害者住宅整備資金貸付条例の廃止について

2 議案（追加分）【説明・質疑・討論・採決】

- ・ 議案第 69 号 令和 6 年度鳥取市一般会計補正予算（第 10 号）

- ・ 議案第 70 号 鳥取市国民健康保険条例の一部改正について

3 請願【質疑・討論・採決】

＜請願（新規）＞

- ・ 令和 7 年請願第 1 号 「加齢性難聴者の補聴器購入に係る公的補助制度創設」を求める意見書の提出を求める請願

----- 《予算審査特別委員会福祉保健分科会》 -----

【予算審査分：質疑】

- ・ 議案第 11 号 令和 7 年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

- ・ 議案第 14 号 令和 7 年度鳥取市国民健康保険費特別会計予算

- ・ 議案第 17 号 令和 7 年度鳥取市介護保険費特別会計予算
- ・ 議案第 21 号 令和 7 年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計予算

◎ 分科会長報告の取りまとめ

----- 《福祉保健委員会》 -----

その他 福祉部終了後

- ・ 令和 7 年度福祉保健委員会視察について